

令和 7 年度 道の駅かくだ地域振興機能施設改修工事

INDEX

A	図面名（建築図）	S	図面名（構造図）	M	図面名（機械設備図）
00	表紙・目次	01	床伏図・各部材リスト	01	機械設備改修工事特記仕様書
01	建築改修工事特記仕様書（１）	02	構造詳細図	02	空調和・換気設備改修後平面詳細図
02	建築改修工事特記仕様書（２）			03	給排水衛生設備改修前・後平面詳細図
03	建築改修工事特記仕様書（３）	E	図面名（電気設備図）		
04	建築改修工事特記仕様書（４）	01	電気設備改修工事特記仕様書		
05	建築改修工事特記仕様書（５）	02	凡例・配電盤（前・後）		
06	建築改修工事特記仕様書（６）	03	軸線動力設備平面図（改修後）		
07	建築改修工事特記仕様書（７）	04	軸線動力設備平面図（改修前）		
08	建築改修工事特記仕様書（８）	05	照明器具参考姿図		
09	建築改修工事特記仕様書（９）	06	電灯設備平面図（改修後）		
10	建築改修工事特記仕様書（１０）	07	電灯設備平面図（改修前）		
11	工事区分表	08	防災照明設備平面図（改修後）		
12	案内図・配置図	09	防災照明設備平面図（改修前）		
13	仮設計画図・平面図・仕上表	10	コンセント設備平面図（改修後）		
14	平面詳細図（改修前）	11	コンセント設備平面図（改修前）		
15	平面詳細図（改修後）	12	弱電設備平面図（改修後）		
16	矩計図（改修前・後）	13	弱電設備平面図（改修前）		
17	展開図（改修前・後）・天井伏図	14	拡声設備姿図・系統図		
18	建具表（改修前・後）	15	拡声設備平面図（改修後）		
19	建具詳細図	16	自動火災報知設備凡例・系統図		
20	部分詳細図	17	自動火災報知設備平面図（改修後）		
21	家具図（１）（テナント増床範囲新設計器）	18	自動火災報知設備平面図（改修前）		
22	家具図（２）（テナント既存撤去、再利用）				
23	家具図（３）（テナント既存撤去、再利用）				

令和 7 年 8 月

 株式会社 楠山設計

建 築 改 修 工 事 特 記 仕 様 書 【令和7年4月版】		・その他の廃棄物（管理型） 種 類 受 入 施 設 名 所 在 地（Km） 備 考 上記の処理、処分は設計積算上の条件明示であり、処理施設を指定するものではない。なお、上記によらない場合は、監督職員と協議すること。 また、処理、処分に先立ち処分場等の受入の可否を確認すること PCB（ポリ塩化ビフェニール）含有機器 ・ 有（数量は図示） [5.4.1] ・ 無 PCB含有シーリング材 ・ 有（施工範囲は図示） [5.4.1] ・ 無 PCBを含有する機器等については、飛散、流失等がないように適切な容器に納め、適切な場所に保管し、工事完了後、監督職員に引き渡す。 アスベストの処理 吹き付けアスベスト除去工事 ・ 有（図示） ・ 無 受け入れ施設名・所在地(km) アスベスト含有保温材除去工事 ・ 有（図示） ・ 無 受け入れ施設名・所在地(km) アスベスト成形板除去工事 ・ 有（図示） ・ 無 受け入れ施設名・所在地(km) ヒ素又はカドミウム含有石膏ボードの処理 ヒ素又はカドミウムボード ・ 有（図示） ・ 無 次に該当する場合は、指定する場所に処分すること。 ＜対象となる石膏ボード＞ 小名浜吉野石膏（株） いわき工場 昭和48年10月～平成9年4月の間に製造されたもの 日東石膏ボード（株） 八戸工場 平成4年10月～平成9年4月の間に製造されたもの 指定する処分場 【名称： 所在地(km) ｝ ・ 適用する ※ 適用しない <1.3.3> <1.3.10> 工事の施工中に事故が発生した場合は、直ちに監督職員に通報するとともに、監督職員から指示があった場合は「事故報告書」を指示する期日までに監督職員に提出する。（宮城県HP「事故発生報告」参照） 材料の品質等 <1.4.2> ※ 本工事に使用する材料は、設計図書に定める品質及び性能を有するものとし、その材料にJIS又はJASのマークの表示のある場合を除いて監督職員の承諾を受ける。 特定のものが特記された場合は、設計図書に規定するもの又は、これらと同等のものとする。ただし、同等のものとする場合は、監督職員の承諾を受ける。 環境への配慮 <1.4.1> ※ 本工事に使用する材料の選定及び施工に当たっては、「県有施設のシックハウスマニュアル」に留意し、揮発性有機化合物の放散による健康への影響に配慮する。 ※ ホルムアルデヒド仕様 使用する材料のホルムアルデヒド仕様は以下のとおりとする。 ホルムアルデヒド放散量 規制対象外 の 場合の建築材料 1） J I S及び J A Sの F ☆☆☆品 2） 建築基準法施行令第20条の7第4項による国土交通大臣認定品 3） 次の表示のある J A S適合品 a. 非ホルムアルデヒド系接着剤使用 b. 接着剤等不使用 c. 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散させない材料使用 d. ホルムアルデヒドを放散させない塗料等使用 e. 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散させない塗料使用 <1.5.9><1.7.9> ※ ホルムアルデヒド及び揮発性有機化合物の測定 試料採取及び測定は、厚生労働省の「室内空気中化学物質の採取方法及測定方法」の新築住宅の例に準拠するほか、拡散方式ではサンブラー製造所のでめる仕様にいう。 測定対象物質 ※ ｾﾙﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ（濃度指針値 100μg/m3 ・ 0.08ppm） ※ ｴﾃﾝ（濃度指針値 220μg/m3 ・ 0.05ppm） ※ ｵｰﾍﾞﾝ（濃度指針値 260μg/m3 ・ 0.07ppm） ※ ｴﾏﾙﾍﾞﾝ（濃度指針値 3、800μg/m3 ・ 0.88ppm） ※ ｴﾏﾙﾍﾞﾝ（濃度指針値 200μg/m3 ・ 0.05ppm） 測定する室等：（ テナント（増床範囲） ） 採取方法：吸引方式又は拡散方式とし、拡散方式では8時間採取する。 測定結果等報告書の提出 次の事項を記載した報告書を1部提出する。 a 測定結果 b 試料採取時の状況（気温・湿度（室外・室内）、天候、風の状況、日射進入状況、測定年月日・時間、窓の開閉状況、機械換気量、工事完成時から測定までの日数） c 試料採取方法、測定方法、使用した測定機器 測定対象物質が指針値を超える濃度で検出された場合は、引渡は受けない。 ※ 室内VOC濃度の測定結果に関する書面の当該施設への提示については、施設管理者に依頼する。 総揮発性有機化合物の測定は「11章 総揮発性有機化合物（TVOC）測定」参照 「改修標準仕様書」及び「標準仕様書」に記載されていない特別な材料の工法は、当該製品の指定工法とする。		① 建築基準法による風圧力等の指定 ＜3.5.4>＜3.9.3>＜5.11～13.2>＜5.14.5>＜13.2.3>（13.3.3） 適用工事 ・ 合成高分子系ルーフィングシート ・ アルミニウム笠木 ・ 折板屋根葺 ・ 重量シャッター ・ オーバーヘッドドア 建築基準法の指定 風速（V0） ※30・ 地表面粗度区分 ・Ⅱ ・Ⅲ 多雪地域の指定 ・有 ・無 ※ 図示 ・ 現状平均地盤高 施工数量調査 <1.6.2> 調査項目 調査範囲 調査方法 成果品 ・ 既存部分の破壊を行った場合の補修方法は、図示による。 <1.6.3> ・ 下表で技能士を適用することとした職種に、1級又は単一級技能士を配置する。 <1.7.2> ※ 下表で技能士を適用することとした職種に、1級、2級又は単一級技能士を配置する。 ※ 下表で技能士を適用しないとした職種でも、技能士の配置に努めること。 工事種目 技能検定職種（技能検定作業） 以下の該当工事 仮設工事 ・ とび（とび作業） 防水改修工事 ・ 防水施工 ・ アスファルト防水工事作業 ・ ウレタンゴム系塗膜防水工事作業 ・ アクリルゴム系塗膜防水工事作業 ・ 合成ゴム系シート防水工事作業 ・ 塩化ビニル系シート防水工事作業 ・ シーリング防水工事作業 ・ 改質アスファルトシート防水工事作業 ・ F R P防水工事作業 外壁改修工事 ・ 左官（左官作業） ・ タイル張り（タイル張り作業） ・ 樹脂接着剤注入施工（樹脂接着剤注入工事作業） ・ 塗装（建築塗装作業） 建具改修工事 ・ サッシ施工（ビル用サッシ施工作業） ・ ガラス施工（ガラス工事作業） ・ 自動ドア施工（自動ドア施工作業） 内装改修工事 ・ 内装仕上施工 ・ プラスチック系床仕上工事作業 ・ 木質系床仕上工事作業 ・ ボード仕上工事作業 ・ 鋼製下地工事作業 塗装改修工事 ・ 表装（壁装作業） ・ 建築大工（大工工事作業） ・ 塗装（建築塗装作業） 耐震改修工事 ・ 鉄筋施工（鉄筋組立作業） ・ 型枠施工（型枠工事作業） ・ とび（とび作業） ・ コンクリート圧送施工（コンクリート圧送工事作業） ・ A L Cパネル施工（A L Cパネル工事作業） コンクリートブロック・ALCパネル・押出成形メント板工事 ・ 石材施工（石張り作業） 石工事 ・ 配管（建築配管作業） 排水工事 ・ 路面標示施工 ・ 溶融ペイントハンド・マーカ工事作業 ・ 加熱ペイントマシン・カ作業 舗装工事 ・ 造園（造園工事作業） 植栽工事 ・ 建築板金（内外装板金作業） 屋根及びとい工事 ② 設計G L 13. 施工調査 ④ 技 能 士 ⑤ 完成図等 ⑥ 完成写真 ⑦ 設備工事との取合い ⑧ 火災保険等 ① 仮囲い ② 交通誘導員 ③ 揚重機械器具 ※ 設ける ・ 設けない 仮囲いの位置及び延長は図示による。 ○ キャスターゲート（H=2.1m、W=2.7m）× 1箇所 ・ シートゲート（H=、W=）× 箇所 ・ 配置する（ 日 × 人 = 人日） ※ 配置しない ・ トラッククレーン（ t 吊り）× 日 ・ （ t 吊り）× 日 ※ 設ける ・ 設けない 仮囲いの位置及び延長は図示による。 ○ キャスターゲート（H=2.1m、W=2.7m）× 1箇所 ・ シートゲート（H=、W=）× 箇所 ・ 配置する（ 日 × 人 = 人日） ※ 配置しない ・ トラッククレーン（ t 吊り）× 日 ・ （ t 吊り）× 日	④ 工事表示板 ※ 設置する ・ 設置しない 営繕工事における工事及びコスト表示要領（令和6年4月1日宮城県土木部 営繕課・設備課制定）による。 外部足場 ・ 設置する （設置範囲 ・ 工事に必要な範囲 <2.2.1>） ・ 設置しない 防護シート ○ 設置する （設置範囲 ・ 工事に必要な範囲） ・ 設置しない 内部足場 ○ 設置する （ ・ ※脚立、足場板等） ○ 設置しない ○ 材料、撤去材等の運搬方法 種別（○A種 ・ B種 ・ C種 ・ D種 ・ E種） C種：利用可能なエレベーター（ ） D種：利用可能な階段（ ） 足場を設ける場合は、「手すり先行工法等に関するガイドライン（厚生労働省平成21年4月策定）」によるものとし、設置については「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」及び「働きやすい安心感のある足場に関する基準」によること。 ⑥ 養生 家具及び設備の移動 ・ 行う（図示） ○ 行わない <2.3.1> 既存ブラインド・カーテン等の養生及び保管 ○ 行う ・ 行わない 養生の方法 保管場所 ⑦ 仮設間仕切り ○ 設ける（図示） ・ A種 ・ B種 ※ C種 <2.3.2>×表2.3.1> ⑧ 監督職員事務所 ※ 設けない（請負者事務所に打合せ会議室を確保する） <2.4.1> ・ 設ける（規模 m程度 請負者事務所と同様 ・ 可 ・ 否） 備品（ 構内既存の施設 ○ 利用できる（※有償 ・ 無償） ※ 利用できない 構内既存の施設 ○ 利用できる（※有償 ・ 無償） ※ 利用できない ※ 溶接などの消費電力の大きな機器を除く ※ 指定しない ・ 指定する（図示） ○ 既存什器移設に伴う設置 期間（4ヵ月程度）、仕様（仮設資材倉庫程度） 設置場所（敷地内）、規模（8㎡程度） 設置にあたり、監督員と協議を行うこと。 3 防水改修工事 1 降雨等に対する養生（とい共） ※改修標準仕様書3.1.3(5) (7)～(9)による <3.1.3> 2 既存防水の処理 既存保護層の撤去 <3.2.3～4>×<3.2.6> ・ 行う（範囲・図示による ・ ） ・ 行わない 既存防水層の撤去 ・ 行う（範囲・図示による ・ ） ・ 行わない 露出防水層表面の仕上げ塗装除去 ・ 行う（ ・ M4AS ・ M4AS1 ・ M4C ・ M4DI ・ L4X ） ・ 行わない 3 既存下地の処理 補修箇所の形状、長さ、数量等 <3.2.6> ※図示による POS工法及びPOSI工法（機械的固定方法）の既存保護層を撤去し防水層を非撤去とした立上り部等の処置 ※改修標準仕様書3.2.6(4) (7) (g) ①～③による 設備機器架台、配管受部、バラベット、貫通パイプ回り、手すり・丸環の取付け部、塔屋出入口部等の欠損部及び防水層未端部の納まり部の処理 ※監督職員と協議する ・ 図示による 4 アスファルト防水 屋根保護防水（既存） <3.1.4>×<3.2～5>×表3.1.1×表3.3.3～10> 新設防水層の種類 改修工法 新設種別 施工箇所 絶縁用シート 断熱材 ・ P2A ・ A-1 ※ポリエチレンフィルム ・ A-2 厚さ0.15mm以上 ・ A-3 又はフラット・マックス ・ P1B ・ B-1 70g/㎡程度 ・ B-2 ・ P2AI ・ AI-1 ※フラット・マックス ・ AI-2 70g/㎡程度 ※JISA9521Iに基づく押出法 ・ AI-3 ※ポリスチレン断熱材3種BA ・ P1BI ・ BI-1 （3層層付き） ・ BI-2 厚さ・ 改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ ※改修標準仕様書3.3.3及び表3.3.9による ・ JIS A 6013Iに基づく種類及び厚さ 用途による区分 材料による区分 ※R種 厚さ（ ）mm以上 部分粘着層付改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ ※改修標準仕様書3.3.3及び表3.3.9による ・ JIS A 6013Iに基づく種類及び厚さ 用途による区分 材料による区分 ※R種 厚さ（ ）mm以上 平場の保護コンクリートの厚さ こて仕上げ ※水下 80mm以上 床タイル張り ※水下 60mm以上 立上り部の保護方法 ・ 乾式保護材（品質・性能、試験方法は別表による） ・ 蒸気系パネルI類（厚さ（mm）幅（mm）） ・ れんが押え（※JIS R 1250（ ））
---------------------------------	--	---	--	--	---

3
防水改修工事

5. 改質アスファルトシート防水

屋根露出防水（既存）
新設防水層の種類

改修工法	新設種別	施工箇所	仕上塗料		断熱材	備考
			種類	使用量		
・M4C	・C-1 ・C-2 ・C-3 ・C-4		・製造所の仕様	※製造所の仕様		
・M3D ・POD	・D-1 ・D-2 ・D-3 ・D-4		・製造所の仕様	※製造所の仕様		脱気装置 ・有 ・無 改修用ドレン ・有 ・無
・POD1 ・M3D1 ・M4D1	・D1-1 ・D1-2		・製造所の仕様	※製造所の仕様	※3.3.2(9)種類 ・厚さ	脱気装置 ・有 ・無 改修用ドレン ・有 ・無

改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ
※改修標準仕様書表3.3.9による
・JIS A 6013に基づく種類及び厚さ
用途による区分
材料による区分 ※R種
厚さ（ ）mm以上

部分粘着層付改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ
※改修標準仕様書表3.3.8及び表3.3.9による
・JIS A 6013に基づく種類及び厚さ
用途による区分
材料による区分 ※R種
厚さ（ ）mm以上

絶縁断熱工法のルーフトレン回り及び立上り部周辺の断熱材の張りじまい位置
※図示による

絶縁工法及び絶縁断熱工法の脱気装置の種類及び設置数量
種類 ※アスファルトルーフィング類の製造所の指定

設置数量 ※アスファルトルーフィング類の製造所の指定（個）

屋根防水
防水層の種類

改修工法	種別	施工箇所
・PIE	・E-1	
・P2E	・E-2	

保護層 ・設ける（※図示による）
・設けない

E-1の工程3を行う部位
※貯水槽、浴室等常時水に接する部位

立上り部の押え金物の材質、形状及び寸法
※アルミニウム製 L-30×15×2.0mm程度

屋上排水溝
※図示による

屋根露出防水（既存）
新設防水層の種類

改修工法	新設種別	施工箇所	仕上塗料 種類	使用量	断熱材	備考
・M4AS	・AS-T1 ・AS-T2 ・AS-J2		・製造所の仕様	※製造所の仕様		
・M3AS	・AS-T3 ・AS-T4 ・AS-J1		・製造所の仕様	※製造所の仕様		脱気装置 ・有 ・無 改修用ドレン ・有 ・無
・POAS	・AS-T3 ・AS-T4 ・AS-J1 ・AS-J3		・製造所の仕様	※製造所の仕様		脱気装置 ・有 ・無 改修用ドレン ・有 ・無
・M3ASI ・M4ASI ・POASI	・ASI-T1 ・ASI-J1		・製造所の仕様	※製造所の仕様	3.4.2(3)種類 ・厚さ	脱気装置 ・有 ・無 改修用ドレン ・有 ・無 防湿層 ・有 ・無

改質アスファルトシートの種類及び厚さ
※改修標準仕様書表3.4.1から表3.4.3による
・JIS A 6013に基づく種類及び厚さ
用途による区分
材料による区分 ※R種
厚さ（ ）mm以上

粘着層付改質アスファルトシートの種類及び厚さ
※改修標準仕様書表3.4.1から表3.4.3による
・JIS A 6013に基づく種類及び厚さ
用途による区分
材料による区分 ※R種
厚さ（ ）mm以上

部分粘着層付改質アスファルトシートの種類及び厚さ
※改修標準仕様書表3.4.1から表3.4.3による
・JIS A 6013に基づく種類及び厚さ
用途による区分
材料による区分 ※R種
厚さ（ ）mm以上

立上り部の押え金物の材質、形状及び寸法
※アルミニウム製 L-30×15×2.0mm程度

絶縁工法及び絶縁断熱工法の脱気装置の種類及び設置数量
種類 ※アスファルトルーフィング類の製造所の指定

設置数量 ※アスファルトルーフィング類の製造所の指定（個）

6. 合成高分子系ルーフィングシート防水

絶縁断熱工法の防湿用シート
・設置する
・設置しない

新設防水層の種類

改修工法	新設種別	施工箇所	仕上塗料 種類	使用量	断熱材	備考
	・S-F1		・製造所の仕様	※製造所の仕様		脱気装置 ・有 ・無 改修用ドレン ・有 ・無
・POS ・S4S	・S-F2 ・S-M1		・製造所の仕様	※製造所の仕様		
	・S-M2 ・S-F1	・プレキャストコンクリート下地	・製造所の仕様	※製造所の仕様		脱気装置 ・有 ・無
・S3S	・S-F2	・プレキャストコンクリート下地				
	・S-M1		・製造所の仕様	※製造所の仕様		脱気装置 ・有 ・無
・M4S	・S-M2					
	・S-F1	・プレキャストコンクリート下地	・製造所の仕様	※製造所の仕様	3.5.2(3)(i)(b)種類 ・厚さ(mm) ・25 ・50	脱気装置 ・有 ・無 改修用ドレン ・有 ・無
・POS1 ・S3S1 ・S4S1 ・M4S1	・S-F2 ・S-M1	・プレキャストコンクリート下地	・製造所の仕様	※製造所の仕様	3.5.2(3)(i)(a)種類 ・厚さ(mm) ・25 ・50	
	・S-M2					

S-F1、S-M1、S-F2、S-M2の仕様
※非歩行仕様
・軽歩行仕様
S1-M1及びS1-M2における防湿用フィルム
・設置する
・設置しない

屋内防水
防水層の種類

種別	種別	施工箇所	保護層
・PIS	・S-C1		平場の保護モルタル塗厚 立上り部の保護モルタル塗厚 ※7mm以下

平場の保護モルタル床塗りにおける目地の目地割及び種類
目地割
※目地割2m程度、最大目地間隔3m程度

目地の種類
※押し目地

合成高分子系ルーフィングシートの種類及び厚さ
※改修標準仕様書表3.5.1から表3.5.3による
・JIS A 6008に基づく種類及び厚さ
種類
厚さ mm以上

絶縁用シートの材質
※発泡ポリエチレンシート

固定金具の材質、形状及び寸法
※厚さ0.4mm以上の防錆処理した鋼板、ステンレス鋼板又はそれらの鋼板の片面若しくは両面に樹脂を積層加工したもの

接着工法の場合の脱気装置の種類及び設置数量
種類 ※ルーフィングシートの種類及び製造所の仕様

設置数量 ※ルーフィングシートの種類及び製造所の仕様（個）

接着工法の場合のプレキャストコンクリート部材下地の目地処理
・行う（※図示による）
プレキャストコンクリート部材の入隅部の増張り（種別S-F1、S1-F1の場合）
・行う（※図示による）
・行わない

新設防水層の種類

改修工法	新設種別	施工箇所	仕上塗料 種類	使用量	備考
・POX	※X-1 ・X-2 ・X-1H ・X-2H		・主材料の製造所の仕様	※主材料の製造所の仕様	脱気装置 ・有 ・無 改修用ドレン ・有 ・無
・L4X	・X-1 ※X-2 ・X-1H ・X-2H		・主材料の製造所の仕様	※主材料の製造所の仕様	脱気装置 ・有 ・無

ウレタンゴム系塗膜防水X-1の脱気装置の種類及び設置数量
種類 ※主材料の製造所の仕様

設置数量 ※主材料の製造所の仕様（個）

7. 塗膜防水

8. シーリング

新設防水層の種類

改修工法	新設種別	施工箇所	工程数及び各工程の使用量	保護層
・PIY	※Y-2		※主材料の製造所の仕様	・設ける ・設けない
・P2Y	※Y-2		※主材料の製造所の仕様	・設ける ・設けない

シーリング改修工法の種類
○シーリング充填工法
・シーリング再充填工法
・拡幅シーリング再充填工法
・ブリッジ工法
・ボンドプレーカー張り
・適用する
・適用しない
・エッジング材張り
・適用する
・適用しない

シーリング材の種類、施工箇所
下表以外は、改修標準仕様書表3.7.1による。

施工箇所	シーリング材の種類（記号）
サッシ周り	MS-2
水回り、ガラス押え	SR-1

仕上げを行わない施工箇所
・図示による

シーリング材の目地寸法
※改修標準仕様書3.7.3(1)による
・図示による

接着性試験
※簡易接着性試験
・引張接着性試験

その他の材種
・配管用鋼管
・硬質ポリ塩化ビニル管
・ルーフトレン
・表面処理鋼板（表面及び裏面の塗膜の種類）

とい受金物
材種
※改修標準仕様書3.8.2による（溶融亜鉛めっきを行ったもの）

形状
※市販品（とい径100以下）
※25×4.5以上（とい径100を超えるもの）

取付け間隔
※改修標準仕様書3.8.2による

足金物
材種
※改修標準仕様書3.8.2による（溶融亜鉛めっきを行ったもの）

形状
※市販品

取付け間隔
※改修標準仕様書3.8.2による

多雪地域
・適用する
・適用しない

防露材のホルムアルデヒド放散量
※F☆☆☆☆

既存のといその他の除去及び降雨等に対する養生方法
・図示による
鋼管製といの防露巻き
※改修標準仕様書表3.8.4による

ルーフトレンの種類及び呼び

種別	呼び	施工箇所
・ろく屋根用たて形Ⅰ型	※ねじ込み式 ・80 ・100 ・125 ・150	
・ろく屋根用様形Ⅰ型	※ねじ込み式 ・80 ・100 ・125 ・150	
・バルコニー中継用	※ねじ込み式 ・50 ・80 ・100	
	・差し込み式 ・50 ・75 ・100	
・バルコニー用	※ねじ込み式 ・50 ・80 ・100	
	・差し込み式 ・50 ・75 ・100	

たてどい受金物の取付け
※図示による

ルーフトレンの取付け
※水はけよく、床面より下げ、周囲の隙間にモルタルを充填する

種類

種別	呼び	施工箇所
・オープン形式（・押出250形 ・押出300形 ・押出350形） ・板材折曲げ形（・オープン形式 ・シール形式） 本体幅（ ）mm 板厚（※2.0mm ・ mm）		

表面処理
種別（ ）種
色合等 ・標準色（ ） ・特注色（ ）

既存笠木等の撤去
・行う（範囲
・図示による
・行わない

下地補修の工法
※図示による

板材折曲げ形の笠木の取付方法
※図示による

9. とい

10. アルミニウム製笠木

11. 防水保証

1. ひび割れ部改修工法

4-1 外壁改修工事
コンクリート打放し仕上げ外壁

・樹脂注入工法

工法の種類	ひび割れ幅 (mm)	注入口間隔 (mm)	注入量 (mL/m)	延べ長さ (m)
※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上～1.0未満	※200～300	・130	図示による
・手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上～0.3未満	・50～100	・40	
・機械式エポキシ樹脂注入工法	0.3以上～0.5未満	・100～200	・70	
	0.5以上～1.0未満	・150～250	・130	

注入状況の確認方法
※コアの抜き取りを行う
抜き取り個数
※長さ500mmごと及びその端数につき1個

抜き取り部の補修方法
※図示による

・Uカットシール材充填工法

工法の種類	ひび割れ幅 (mm)	延べ長さ (m)
・可とう性エポキシ樹脂	0.2以上～0.3未満 0.3以上～0.5未満 0.5以上～1.0未満 1.0超過 1.0超過～1.5未満 1.5以上～2.0未満 以上～未満	図示による

・シーリング材
充填材料の種類
※1成分形又は2成分形ポリウレタン系

シーリング材のうえにポリマーセメントモルタルの充填
・行う
・行わない

シーリング材の試験は改修標準仕様書3章 防水改修工事による。
・可とう性エポキシ樹脂

・シール工法

工法の種類	ひび割れ幅 (mm)	延べ長さ (m)
・パテ状エポキシ樹脂 ・可とう性エポキシ樹脂	0.2未満	図示による

・充填工法

材料	平均深さ (mm)	平均広さ (mm)	延べ箇所数
・ポリマーセメントモルタル	5～10未満 10～15未満 15～20未満 20～25未満 25～30未満 30～35未満 35～40未満		図示による

・エポキシ樹脂モルタル

材料	平均深さ (mm)	平均広さ (mm)	延べ箇所数
・エポキシ樹脂モルタル	5～10未満 10～15未満 15～20未満 20～25未満 25～30未満 30～35未満 35～40未満		図示による

1. ひび割れ部改修工法

4-2 外壁改修工事
モルタル塗り仕上げ外壁

・樹脂注入工法

工法の種類	ひび割れ幅 (mm)	注入口間隔 (mm)	注入量 (mL/m)	延べ長さ (m)
※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上～1.0未満	※200～300	・130	図示による
・手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上～0.3未満	・50～100	・40	
・機械式エポキシ樹脂注入工法	0.3以上～0.5未満	・100～200	・70	
	0.5以上～1.0未満	・150～250	・130	

注入状況の確認方法
※コアの抜き取りを行う
抜き取り個数
※長さ500mmごと及びその端数につき1個

抜き取り部の補修方法
※図示による

・Uカットシール材充填工法

工法の種類	ひび割れ幅 (mm)	延べ長さ (m)
・可とう性エポキシ樹脂	0.2以上～0.3未満 0.3以上～0.5未満 0.5以上～1.0未満 1.0超過 1.0超過～1.5未満 1.5以上～2.0未満 以上～未満	図示による

・シーリング材

工法の種類	ひび割れ幅 (mm)	延べ長さ (m)
・シーリング材	1.0超過～1.5未満 1.5以上～2.0未満 以上～未満	

記 事

株式会社 楠山設計

仙台市青葉区一番町三丁目3番16号
オー・エックス芭蕉の辻ビル
TEL (022) 224-1207

一級建築士事務所
宮城県知事 登録 第23110182号
板垣 俊也 登録 第 207908号

設 計 者

承 認

設 計 部

月 日

R7.8

縮 尺

A1= A3=

工 事 名

令和7年度 道の駅かくだ
地域振興機能施設改修工事

図 面 名

建築改修工事特記仕様書（2）

No.

A-02

4-2	外壁改修工事 モルタル塗り仕上げ外壁	・シーリング材 充填材料の種類 ※1成分形又は2成分形ポリウレタン系 ・シーリング材のうににポリマーセメントモルタルの充填 ・行う ・行わない ・シーリング材の試験は改修標準仕様書3章 防水改修工事による。 ・可とう性エポキシ樹脂 ・シール工法 <table border="1"> <tr> <th>工法の種類</th><th>ひび割れ幅 (mm)</th><th>延べ長さ (m)</th></tr> <tr> <td>・パテ状エポキシ樹脂</td><td>0.2未満</td><td>図示による</td></tr> <tr> <td>・可とう性エポキシ樹脂</td><td></td><td></td></tr> </table> ・充填工法 <table border="1"> <tr> <th>材料</th><th>平均深さ (mm)</th><th>平均広さ (㎡)</th><th>延べ箇所数</th></tr> <tr> <td>・ポリマーセメントモルタル</td><td>5～10未満</td><td></td><td>図示による</td></tr> <tr> <td></td><td>10～15未満</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td></td><td>15～20未満</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td></td><td>20～25未満</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td></td><td>25～30未満</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>・エポキシ樹脂モルタル</td><td>30～35未満</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td></td><td>35～40未満</td><td></td><td></td></tr> </table> ・モルタル塗替え工法 <table border="1"> <tr> <th>材料</th><th>平均深さ (mm)</th><th>平均広さ (㎡)</th><th>延べ箇所数</th></tr> <tr> <td>・現場調査材料</td><td></td><td></td><td>図示による</td></tr> <tr> <td>・既調査材料</td><td></td><td></td><td></td></tr> </table> ・現場調査材料 (セメントは改修特記仕様書8-2 コンクリート工事による) ・既調査材料 () 既製目地材 ・使用する (形状 ・図示による) 仕上げ厚又は全塗厚が25mmを超える場合の措置 ※図示による	工法の種類	ひび割れ幅 (mm)	延べ長さ (m)	・パテ状エポキシ樹脂	0.2未満	図示による	・可とう性エポキシ樹脂			材料	平均深さ (mm)	平均広さ (㎡)	延べ箇所数	・ポリマーセメントモルタル	5～10未満		図示による		10～15未満				15～20未満				20～25未満				25～30未満			・エポキシ樹脂モルタル	30～35未満				35～40未満			材料	平均深さ (mm)	平均広さ (㎡)	延べ箇所数	・現場調査材料			図示による	・既調査材料				2. 欠損部改修工法	・樹脂注入工法 <table border="1"> <tr> <th>工法の種類</th><th>ひび割れ幅 (mm)</th><th>注入口間隔 (mm)</th><th>注入量 (mL/m)</th><th>延べ長さ (m)</th></tr> <tr> <td>※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法</td><td>0.2以上～1.0未満</td><td>※200～300</td><td>・130</td><td>図示による</td></tr> <tr> <td>・手動式エポキシ樹脂注入工法</td><td>0.2以上～0.3未満</td><td>・50～100</td><td>・40</td><td></td></tr> <tr> <td>・機械式エポキシ樹脂注入工法</td><td>0.3以上～0.5未満</td><td>・100～200</td><td>・70</td><td></td></tr> <tr> <td></td><td>0.5以上～1.0未満</td><td>・150～250</td><td>・130</td><td></td></tr> </table> 注入状況の確認方法 ※コアの抜き取りを行う 抜き取り個数 ※長さ500mmごと及びその端数につき1個 抜き取り部の補修方法 ※図示による ・タイル部分張替え工法 接着剤の種類 ・ポリマーセメントモルタル ・JIS A 5557に基づく一液反応硬化形成シリコーン樹脂系 施工数量： 平均広さ () ㎡ 延べ箇所数 () 箇所 ・タイル張替え工法 張替え用材料 ・接着剤JIS A 5557に基づく一液反応硬化形成シリコーン樹脂系 ・張付けモルタル (・現場調査材料 ・既調査モルタル) 伸縮調整目地及びひび割れ誘発目地の位置 ※改修標準仕様書表4.4.21による ・図示による 外装タイル張り下地等の下地モルタル及び下地調整剤塗りの接着力試験 ・行う ・行わない 施工数量： 平均広さ () ㎡ 延べ箇所数 () 箇所 ・セメントモルタルによるタイル (セラミックタイル) 張り 下地モルタル塗りを行うコンクリート素地面の処理 ・目荒し工法 (改修標準仕様書4.3.10(3)による) ・タイル張りの工法 ・外装タイル ・密着張り ・改良圧着張り ・ユニットタイル ・マスク張り ・モザイクタイル張り シーリング 改修特記仕様書3章 防水改修工事による。 ・有機系接着剤によるタイル (セラミックタイル) 張り モルタル塗りを行うコンクリート素地面の下地処理 ・目荒し工法 (改修標準仕様書4.3.10(3)による) ・シーリング材の種類 打継ぎ目地、ひび割れ誘発目地 ※ポリウレタン系 ・伸縮調整目地その他の目地 ※変成シリコーン系 シーリングのその他事項は、改修特記仕様書3章 防水改修工事による。	工法の種類	ひび割れ幅 (mm)	注入口間隔 (mm)	注入量 (mL/m)	延べ長さ (m)	※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上～1.0未満	※200～300	・130	図示による	・手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上～0.3未満	・50～100	・40		・機械式エポキシ樹脂注入工法	0.3以上～0.5未満	・100～200	・70			0.5以上～1.0未満	・150～250	・130		・タイル張替え工法 張替え用材料 ・接着剤JIS A 5557に基づく一液反応硬化形成シリコーン樹脂系 ・張付けモルタル (・現場調査材料 ・既調査モルタル) 伸縮調整目地及びひび割れ誘発目地の位置 ※改修標準仕様書表4.5.11による ・図示による 外装タイル張り下地等の下地モルタル及び下地調整剤塗りの接着力試験 ・行う ・行わない 施工数量： 平均広さ () ㎡ 延べ箇所数 () 箇所 ・セメントモルタルによるタイル (セラミックタイル) 張り 下地モルタル塗りを行うコンクリート素地面の処理 ・目荒し工法 (改修標準仕様書4.3.10(3)による) ・タイル張りの工法 ・外装タイル ・密着張り ・改良圧着張り ・ユニットタイル ・マスク張り ・モザイクタイル張り シーリング 改修特記仕様書3章 防水改修工事による。 ・有機系接着剤によるタイル (セラミックタイル) 張り モルタル塗りを行うコンクリート素地面の下地処理 ・目荒し工法 (改修標準仕様書4.3.10(3)による) ・シーリング材の種類 打継ぎ目地、ひび割れ誘発目地 ※ポリウレタン系 ・伸縮調整目地その他の目地 ※変成シリコーン系 シーリングのその他事項は、改修特記仕様書3章 防水改修工事による。	5. 目地改修工法 ・目地ひび割れ部改修工法 ・伸縮調整目地改修工法 伸縮調整目地の位置及び寸法 ・図示による シーリングは、改修特記仕様書第3章 防水改修工事による。	4-4 外壁改修工事 塗り仕上げ外壁 1. 既存塗膜等の除去・ 下地処理及び下地調整 <table border="1"> <tr> <th>工法</th><th>処理範囲</th><th>下地面の補修</th></tr> <tr> <td>・サンダー工法</td><td>※既存仕上げ面全体 ・図示による</td><td></td></tr> <tr> <td>・高圧水洗工法</td><td>※既存仕上げ面全体 ・図示による</td><td></td></tr> <tr> <td>・塗膜はく離剤工法</td><td>※既存仕上げ面全体 ・図示による</td><td>・ひび割れ部改修工法 ・浮き部改修工法 ・欠損部改修工法</td></tr> <tr> <td>・水洗い工法</td><td>※サンダー工法、高圧水洗工法、 塗膜はく離剤工法の処理範囲以外の既存仕上げ面全面 ・図示による</td><td></td></tr> </table> 2. 下地調整塗材 ※下地調整塗材 ・ポリマーセメントモルタル 3. 仕上塗材仕上げ 新規仕上塗材の種類 ・薄付け仕上塗材 <table border="1"> <tr> <th>種類 (呼び名)</th><th>仕上の形状</th><th>工法</th><th>防火材料</th></tr> <tr> <td>・外装薄塗材S</td><td>・砂壁状 ・ゆず肌状 ・さざ波状</td><td>・吹付け ・ローラー塗り</td><td>・</td></tr> <tr> <td>・可とう形外装塗材S</td><td>・砂壁状 ・ゆず肌状 ・さざ波状</td><td>・吹付け ・ローラー塗り</td><td>・</td></tr> <tr> <td>・外装薄塗材E</td><td>・砂壁状 ・ゆず肌状 ・さざ波状 ・平たん状 ・凹凸状</td><td>・吹付け ・ローラー塗り</td><td>・</td></tr> <tr> <td>・可とう形外装塗材E</td><td>・砂壁状 ・ゆず肌状 ・平たん状 ・凹凸状 ・ゆず肌状 ・さざ波状</td><td>・吹付け ・こて塗り ・ローラー塗り</td><td>・</td></tr> <tr> <td>・防水形外装薄塗材E</td><td>・ゆず肌状 ・さざ波状 ・凹凸状</td><td>・ローラー塗り ・吹付け</td><td>・</td></tr> <tr> <td>・外装薄塗材S</td><td>・砂壁状</td><td>・吹付け</td><td>・</td></tr> </table> ・厚付け仕上塗材 <table border="1"> <tr> <th>種類 (呼び名)</th><th>仕上の形状</th><th>工法</th><th>上塗り</th><th>防火材料</th></tr> <tr> <td>・外装厚塗材C</td><td>・吹放し ・凸部処理 ・平たん状 ・凹凸状 ・ひき起こし ・かき落とし</td><td>・吹付け ・こて塗り</td><td>・適用する</td><td>・</td></tr> <tr> <td>・外装厚塗材S</td><td>・吹放し ・凸部処理</td><td>・吹付け</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>・外装厚塗材E</td><td>・平たん状 ・凹凸状 ・ひき起こし</td><td>・こて塗り ・ローラー塗り</td><td>・適用する</td><td>・</td></tr> </table>	工法	処理範囲	下地面の補修	・サンダー工法	※既存仕上げ面全体 ・図示による		・高圧水洗工法	※既存仕上げ面全体 ・図示による		・塗膜はく離剤工法	※既存仕上げ面全体 ・図示による	・ひび割れ部改修工法 ・浮き部改修工法 ・欠損部改修工法	・水洗い工法	※サンダー工法、高圧水洗工法、 塗膜はく離剤工法の処理範囲以外の既存仕上げ面全面 ・図示による		種類 (呼び名)	仕上の形状	工法	防火材料	・外装薄塗材S	・砂壁状 ・ゆず肌状 ・さざ波状	・吹付け ・ローラー塗り	・	・可とう形外装塗材S	・砂壁状 ・ゆず肌状 ・さざ波状	・吹付け ・ローラー塗り	・	・外装薄塗材E	・砂壁状 ・ゆず肌状 ・さざ波状 ・平たん状 ・凹凸状	・吹付け ・ローラー塗り	・	・可とう形外装塗材E	・砂壁状 ・ゆず肌状 ・平たん状 ・凹凸状 ・ゆず肌状 ・さざ波状	・吹付け ・こて塗り ・ローラー塗り	・	・防水形外装薄塗材E	・ゆず肌状 ・さざ波状 ・凹凸状	・ローラー塗り ・吹付け	・	・外装薄塗材S	・砂壁状	・吹付け	・	種類 (呼び名)	仕上の形状	工法	上塗り	防火材料	・外装厚塗材C	・吹放し ・凸部処理 ・平たん状 ・凹凸状 ・ひき起こし ・かき落とし	・吹付け ・こて塗り	・適用する	・	・外装厚塗材S	・吹放し ・凸部処理	・吹付け			・外装厚塗材E	・平たん状 ・凹凸状 ・ひき起こし	・こて塗り ・ローラー塗り	・適用する	・	4. マスチック塗材塗り 5. 外壁用塗膜防水材塗り	・複層仕上塗材 <table border="1"> <tr> <th>種類 (呼び名)</th><th>仕上の形状</th><th>工法</th><th>上塗材の種類</th><th>耐候性</th><th>防火材料</th></tr> <tr> <td>・複層塗材CE ・複層塗材FE ・複層塗材S ※複層塗材E</td><td>・凸部処理 ・凹凸状 ・ゆず肌状</td><td>・吹付け ・ローラー塗り</td><td>樹脂 ※7ｸﾘｰﾙ系 ・外観 ※つやあり ・ｸﾞﾗｯｼｭ ・溶媒 ※水系</td><td>※耐候形3種</td><td>・</td></tr> <tr> <td>・可とう形複層塗材CE</td><td>・凸部処理 ・凹凸状 ・ゆず肌状</td><td>・吹付け ・ローラー塗り</td><td>樹脂 ※7ｸﾘｰﾙ系 ・外観 ※つやあり ・ｸﾞﾗｯｼｭ ・溶媒 ※水系</td><td>※耐候形3種</td><td>・</td></tr> <tr> <td>・防水形複層塗材CE ・防水型複層塗材FE ・防水形複層塗材E</td><td>・凸部処理 ・凹凸状 ・ゆず肌状</td><td>・吹付け ・ローラー塗り</td><td>樹脂 ※7ｸﾘｰﾙ系 ・外観 ※つやあり ・ｸﾞﾗｯｼｭ ・溶媒 ※水系</td><td>※耐候形3種</td><td>・</td></tr> </table> ・可とう形改修用仕上塗材 <table border="1"> <tr> <th>種類 (呼び名)</th><th>仕上の形状</th><th>工法</th><th>上塗材の種類</th><th>耐候性</th><th>防火材料</th></tr> <tr> <td>・可とう形改修塗材E ・可とう形改修塗材FE ・可とう形改修塗材CE</td><td>・平たん状 ・さざ波状 ・ゆず肌状</td><td>・ローラー塗り ・ローラー塗り ・吹付け</td><td>樹脂 ・外観 ・溶媒</td><td>・耐候形1種 ・耐候形2種 ・耐候形3種</td><td>・</td></tr> </table> 種類 ・	種類 (呼び名)	仕上の形状	工法	上塗材の種類	耐候性	防火材料	・複層塗材CE ・複層塗材FE ・複層塗材S ※複層塗材E	・凸部処理 ・凹凸状 ・ゆず肌状	・吹付け ・ローラー塗り	樹脂 ※7ｸﾘｰﾙ系 ・外観 ※つやあり ・ｸﾞﾗｯｼｭ ・溶媒 ※水系	※耐候形3種	・	・可とう形複層塗材CE	・凸部処理 ・凹凸状 ・ゆず肌状	・吹付け ・ローラー塗り	樹脂 ※7ｸﾘｰﾙ系 ・外観 ※つやあり ・ｸﾞﾗｯｼｭ ・溶媒 ※水系	※耐候形3種	・	・防水形複層塗材CE ・防水型複層塗材FE ・防水形複層塗材E	・凸部処理 ・凹凸状 ・ゆず肌状	・吹付け ・ローラー塗り	樹脂 ※7ｸﾘｰﾙ系 ・外観 ※つやあり ・ｸﾞﾗｯｼｭ ・溶媒 ※水系	※耐候形3種	・	種類 (呼び名)	仕上の形状	工法	上塗材の種類	耐候性	防火材料	・可とう形改修塗材E ・可とう形改修塗材FE ・可とう形改修塗材CE	・平たん状 ・さざ波状 ・ゆず肌状	・ローラー塗り ・ローラー塗り ・吹付け	樹脂 ・外観 ・溶媒	・耐候形1種 ・耐候形2種 ・耐候形3種	・
工法の種類	ひび割れ幅 (mm)	延べ長さ (m)																																																																																																																																																																																								
・パテ状エポキシ樹脂	0.2未満	図示による																																																																																																																																																																																								
・可とう性エポキシ樹脂																																																																																																																																																																																										
材料	平均深さ (mm)	平均広さ (㎡)	延べ箇所数																																																																																																																																																																																							
・ポリマーセメントモルタル	5～10未満		図示による																																																																																																																																																																																							
	10～15未満																																																																																																																																																																																									
	15～20未満																																																																																																																																																																																									
	20～25未満																																																																																																																																																																																									
	25～30未満																																																																																																																																																																																									
・エポキシ樹脂モルタル	30～35未満																																																																																																																																																																																									
	35～40未満																																																																																																																																																																																									
材料	平均深さ (mm)	平均広さ (㎡)	延べ箇所数																																																																																																																																																																																							
・現場調査材料			図示による																																																																																																																																																																																							
・既調査材料																																																																																																																																																																																										
工法の種類	ひび割れ幅 (mm)	注入口間隔 (mm)	注入量 (mL/m)	延べ長さ (m)																																																																																																																																																																																						
※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上～1.0未満	※200～300	・130	図示による																																																																																																																																																																																						
・手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上～0.3未満	・50～100	・40																																																																																																																																																																																							
・機械式エポキシ樹脂注入工法	0.3以上～0.5未満	・100～200	・70																																																																																																																																																																																							
	0.5以上～1.0未満	・150～250	・130																																																																																																																																																																																							
工法	処理範囲	下地面の補修																																																																																																																																																																																								
・サンダー工法	※既存仕上げ面全体 ・図示による																																																																																																																																																																																									
・高圧水洗工法	※既存仕上げ面全体 ・図示による																																																																																																																																																																																									
・塗膜はく離剤工法	※既存仕上げ面全体 ・図示による	・ひび割れ部改修工法 ・浮き部改修工法 ・欠損部改修工法																																																																																																																																																																																								
・水洗い工法	※サンダー工法、高圧水洗工法、 塗膜はく離剤工法の処理範囲以外の既存仕上げ面全面 ・図示による																																																																																																																																																																																									
種類 (呼び名)	仕上の形状	工法	防火材料																																																																																																																																																																																							
・外装薄塗材S	・砂壁状 ・ゆず肌状 ・さざ波状	・吹付け ・ローラー塗り	・																																																																																																																																																																																							
・可とう形外装塗材S	・砂壁状 ・ゆず肌状 ・さざ波状	・吹付け ・ローラー塗り	・																																																																																																																																																																																							
・外装薄塗材E	・砂壁状 ・ゆず肌状 ・さざ波状 ・平たん状 ・凹凸状	・吹付け ・ローラー塗り	・																																																																																																																																																																																							
・可とう形外装塗材E	・砂壁状 ・ゆず肌状 ・平たん状 ・凹凸状 ・ゆず肌状 ・さざ波状	・吹付け ・こて塗り ・ローラー塗り	・																																																																																																																																																																																							
・防水形外装薄塗材E	・ゆず肌状 ・さざ波状 ・凹凸状	・ローラー塗り ・吹付け	・																																																																																																																																																																																							
・外装薄塗材S	・砂壁状	・吹付け	・																																																																																																																																																																																							
種類 (呼び名)	仕上の形状	工法	上塗り	防火材料																																																																																																																																																																																						
・外装厚塗材C	・吹放し ・凸部処理 ・平たん状 ・凹凸状 ・ひき起こし ・かき落とし	・吹付け ・こて塗り	・適用する	・																																																																																																																																																																																						
・外装厚塗材S	・吹放し ・凸部処理	・吹付け																																																																																																																																																																																								
・外装厚塗材E	・平たん状 ・凹凸状 ・ひき起こし	・こて塗り ・ローラー塗り	・適用する	・																																																																																																																																																																																						
種類 (呼び名)	仕上の形状	工法	上塗材の種類	耐候性	防火材料																																																																																																																																																																																					
・複層塗材CE ・複層塗材FE ・複層塗材S ※複層塗材E	・凸部処理 ・凹凸状 ・ゆず肌状	・吹付け ・ローラー塗り	樹脂 ※7ｸﾘｰﾙ系 ・外観 ※つやあり ・ｸﾞﾗｯｼｭ ・溶媒 ※水系	※耐候形3種	・																																																																																																																																																																																					
・可とう形複層塗材CE	・凸部処理 ・凹凸状 ・ゆず肌状	・吹付け ・ローラー塗り	樹脂 ※7ｸﾘｰﾙ系 ・外観 ※つやあり ・ｸﾞﾗｯｼｭ ・溶媒 ※水系	※耐候形3種	・																																																																																																																																																																																					
・防水形複層塗材CE ・防水型複層塗材FE ・防水形複層塗材E	・凸部処理 ・凹凸状 ・ゆず肌状	・吹付け ・ローラー塗り	樹脂 ※7ｸﾘｰﾙ系 ・外観 ※つやあり ・ｸﾞﾗｯｼｭ ・溶媒 ※水系	※耐候形3種	・																																																																																																																																																																																					
種類 (呼び名)	仕上の形状	工法	上塗材の種類	耐候性	防火材料																																																																																																																																																																																					
・可とう形改修塗材E ・可とう形改修塗材FE ・可とう形改修塗材CE	・平たん状 ・さざ波状 ・ゆず肌状	・ローラー塗り ・ローラー塗り ・吹付け	樹脂 ・外観 ・溶媒	・耐候形1種 ・耐候形2種 ・耐候形3種	・																																																																																																																																																																																					

5	⑤	アルミニウム製建具	性能値等 耐風圧性の等級（・） （建具符号：・建具表による・） 気密性の等級（・） （建具符号：・建具表による・） 水密性の等級（・） （建具符号：・建具表による・） 外部に面する建具の種類 ・A種（建具符号：・建具表による・） ・B種（建具符号：・建具表による・） ・C種（建具符号：・建具表による・） 枠の見込み寸法 （○建具表による・） 防音ドア・防音サッシ 遮音性の等級（・） （建具符号：・建具表による・） 断熱ドア・断熱サッシ 断熱性の等級（・） （建具符号：・建具表による・） 材料 ステンレス鋼板 ※SUS304、SUS430J1L、又はSUS443J1 ・ ステンレス製のくつずりの仕上げ ※HL ・ 形状及び仕上げ 表面処理 外部に面する建具 種別 ※BB-1・BB-2（改修標準仕様書表5.2.2） 着色 ・標準色・特注色 屋内の建具 種別 ※BC-1・BC-2（改修標準仕様書表5.2.2） 着色 ・標準色・特注色 結露水の処理方法 ・水貯め式・排水式 工法 水切り板、ぜん板 ※図示による・	<5.2.2～5><表 5.2.2>		9. 鋼製軽量建具	性能値等 簡易気密型ドアセット ※適用する （建具符号：・建具表による・） ・適用しない 防音ドア・防音サッシ 遮音性の等級（・） （建具符号：・建具表による・） 断熱ドア・断熱サッシ 断熱性の等級（・） （建具符号：・建具表による・） 材料 鋼板 ・亜鉛めっき鋼板 ・ビニル被覆鋼板 ・カラー鋼板 ・ステンレス鋼板 ステンレス鋼板 ※SUS304、SUS430J1L、又はSUS443J1 ・ 召合わせ、縦小口包み板の性質 ※鋼板 ・ ステンレス製のくつずりの仕上げ ※HL ・ 形状及び仕上げ 鋼板類の厚さ ※改修標準仕様書表5.5.1による ・mm 使用箇所（・） 標準型鋼製軽量建具の形式及び寸法 ※建具表による・	<5.2.2><5.5.2～4>	⑫	建具用金物	金物の種類及び見え掛り部の材質等 ※改修標準仕様書表5.8.1により適用は建具表による・ ・ 金属製建具に使用する丁番の枚数及び大きさ ※改修標準仕様書表5.8.2による ・建具表による 樹脂製建具に使用する丁番の枚数及び大きさ ※改修標準仕様書表5.8.3による ・建具表による 木製建具に使用する丁番の枚数及び大きさ ※改修標準仕様書表5.8.4による ・建具表による 木製建具に使用する戸車及びレール ※改修標準仕様書表5.8.5による ・建具表による 握り玉、レバーハンドル、押板類、クレセントの取付け位置 ・建具表による・ ・ マスターキー ・製作する ・製作しない ○既存のマスターキーに合わせる その他の鍵の製作本数 ※各室3本1組（室名札付き） ・ 鍵箱 ・無し・有り 戸の開閉方式 ・建具表による・ ・引き戸用駆動装置 性能値 ※改修標準仕様書表5.9.1による（防錆・適用する・適用しない） ・以下による 種類・開閉方式（・） 耐電圧（・） 温度上昇（・） 耐久性（サイクル）（・） 防錆（・） 電源（・） ・車椅子使用者用便房出入口引き戸用駆動装置 性能値 ※改修標準仕様書表5.9.2による（防錆・適用する・適用しない） ・以下による 耐電圧（・） 温度上昇（・） 耐久性（サイクル）（・） 防錆（・） 電源（・） 引き戸用検出装置 性能値 ※改修標準仕様書表5.9.3による（防錆・適用する・適用しない） ・以下による 耐電圧（・） 防錆（・） 防滴（・） 電源（・） 引き戸用検出装置の種類及び必要性能項目 ・建具表による・ ・ タッチスイッチの種類 ・無線式タッチスイッチ・光線式タッチスイッチ	<5.8.1～3>	15. 自閉式上吊り引戸装置	性能値等 ※改修標準仕様書表5.10.1 ・以下による 手動開き力（・） 手動閉じ力（・） 閉じ速度の調整（・） 制動区間（・） 開閉繰返し（・） 耐衝撃性（・） シャッターの種類 ・管理用シャッター ・外壁用防火シャッター ・屋内用防火シャッター ・防煙シャッター 外壁開口部に設ける重量シャッターの耐風圧強度（・）Pa 開閉方式の種類 ※電動式（手動併用） ・手動式 安全装置 電動式シャッターの急降下制動装置、急降下停止装置 （設置箇所・建具表による・） 電動式シャッターの障害物感知装置 （設置箇所・建具表による・） 屋内用防火シャッター若しくは防煙シャッターの危害防止装置 （設置箇所・建具表による・） 管理用シャッターのシャッターケース ※設ける・設けない スラット及びシャッターケース用鋼板 鋼板の種類 ※JIS G 3302（溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯） ・JIS G 3312（塗装溶融亜鉛めっき鋼板鋼帯） めっきの付着量 ※Z12又はF12 ・ ガイドレール、まぐさ、雨掛りに用いる座板及び座板のカバー、雨掛りに用いるスイッチボックス類のふたの材質 ステンレス鋼板 ※SUS304、SUS430J1L、又はSUS443J1 ・	<5.10.3>	16. 重量シャッター	シャッターの種類 ・管理用シャッター ・外壁用防火シャッター ・屋内用防火シャッター ・防煙シャッター 外壁開口部に設ける重量シャッターの耐風圧強度（・）Pa 開閉方式の種類 ※電動式（手動併用） ・手動式 安全装置 電動式シャッターの急降下制動装置、急降下停止装置 （設置箇所・建具表による・） 電動式シャッターの障害物感知装置 （設置箇所・建具表による・） 屋内用防火シャッター若しくは防煙シャッターの危害防止装置 （設置箇所・建具表による・） 管理用シャッターのシャッターケース ※設ける・設けない スラット及びシャッターケース用鋼板 鋼板の種類 ※JIS G 3302（溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯） ・JIS G 3312（塗装溶融亜鉛めっき鋼板鋼帯） めっきの付着量 ※Z12又はF12 ・ ガイドレール、まぐさ、雨掛りに用いる座板及び座板のカバー、雨掛りに用いるスイッチボックス類のふたの材質 ステンレス鋼板 ※SUS304、SUS430J1L、又はSUS443J1 ・	<5.11.2、3>	17. 軽量シャッター	開閉方式の種類 ※手動式 ・電動式（手動併用） 耐風圧強度（・）Pa 安全装置 電動シャッターの障害物感知装置 （設置箇所・建具表による・） スラットの材質の種類 ※JIS G 3312（塗装溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯） めっきの付着量（※Z06又はF06・） ・JIS G 3322（塗装溶融55％アルミニウム－亜鉛合金めっき鋼板及び鋼帯） めっきの付着量（※AZ90・） スラットの形状 ・インターロッキング形 ・オーバーラッピング形 ・ （※5.13.2、3）	<5.12.2～4>	18. オーバーヘッドドア	セクション材料による区分 ※スチールタイプ ・アルミニウムタイプ ・ファイバークラスタイプ 耐風圧性能区分 ・50 ・75 ・100 ・125 開閉方式による区分 ※バランス式 ・ローヘッド形 ・電動式 ・チェーン式 ・ハイリフト形 ・バーチカル形 ガイドレールの材料 ※溶融亜鉛めっき鋼板 ・ステンレス鋼板 電動式オーバーヘッドドアの障害物感知装置 （設置箇所・建具表による・） ○フロート板ガラスの品種及び厚さの呼びによる種類 ※建具表による・ ・ ・型板ガラスの厚さによる種類 ※建具表による・ ・ ・網入板又は線入板ガラスの網又は線の形状、板の表面の狀態及び厚さの呼びによる種類 ※建具表による ・ ・合わせガラス 材料板ガラスの種類及び厚さの組合せ並びに合わせガラスの合計厚さ ※建具表による ・ 落球衝撃はく離特性並びにショットバック衝撃特性による種類 ・Ⅰ類・Ⅱ-1類・Ⅱ-2類・Ⅲ類 ○強化ガラス 形状による種類、材料板ガラスの種類による名称 ※建具表による ・ 破片の狀態及びショットバック衝撃特性による種類 ・Ⅰ類・Ⅲ類 ・熱線吸収板ガラス 板ガラスによる種類、厚さによる種類 ※建具表による ・ 性能による種類 ・1種・2種	<5.13.2、3>	19. ガラス	性能値等 簡易気密型ドアセット ※適用する （建具符号：・建具表による・） ・適用しない 外部に面する建具の耐風圧性 耐風圧性の等級（・） （建具符号：・建具表による・） 防音ドア・防音サッシ 遮音性の等級（・） （建具符号：・建具表による・） 断熱ドア・断熱サッシ 断熱性の等級（・） （建具符号：・建具表による・） 外部に面する建具の日射熱取得性の等級 ・ 枠の見込み寸法 ・建具表による ・ 材料 ガラス ※複層ガラス ・ ステンレス製のくつずりの仕上げ ※HL ・ 形状及び仕上げ 表面色 ・標準色・特注色 工法 水切り板、ぜん板 ※図示による・	<5.2.2><5.3.2～5>	10. ステンレス製建具	性能値等 簡易気密型ドアセット ※適用する （建具符号：・建具表による・） ・適用しない 外部に面する建具の耐風圧性 耐風圧性の等級（・） （建具符号：・建具表による・） 防音ドア・防音サッシ 遮音性の等級（・） （建具符号：・建具表による・） 断熱ドア・断熱サッシ 断熱性の等級（・） （建具符号：・建具表による・） 耐震性能 建築非構造部材の耐震性能に係る特記事項による 材料 ステンレス鋼板 ※SUS304、SUS430J1L、又はSUS443J1 ・ ステンレス製のくつずりの仕上げ ※HL ・ 形状及び仕上げ 表面仕上げ ※HL ・鏡面仕上げ 工法 ステンレス鋼板の曲げ加工 ※普通曲げ ・角出し曲げ	<5.2.2><5.4.2><5.6.2～5>	⑬	鍵	性能値 ※改修標準仕様書表5.9.1による（防錆・適用する・適用しない） ・以下による 種類・開閉方式（・） 耐電圧（・） 温度上昇（・） 耐久性（サイクル）（・） 防錆（・） 電源（・） 引き戸用検出装置 性能値 ※改修標準仕様書表5.9.2による（防錆・適用する・適用しない） ・以下による 耐電圧（・） 防錆（・） 防滴（・） 電源（・） 引き戸用検出装置の種類及び必要性能項目 ・建具表による・ ・ タッチスイッチの種類 ・無線式タッチスイッチ・光線式タッチスイッチ	<5
---	---	-----------	--	--------------------	--	-----------	--	------------------	---	-------	--	-----------	----------------	--	----------	-------------	---	------------	-------------	---	------------	---------------	--	------------	---------	--	------------------	--------------	---	-------------------------	---	---	--	----

[illegible]

6
内装改修工事

19. ビニル幅木

材質の種類
※軟質・硬質
高さ(mm)
※60・75・100
厚さ(mm)
※1.5以上

種類
・単層品・積層品
色柄
厚さ(mm)
・3.0・4.5・6.0・9.0
寸法(mm)
・織じゅうたん

織り方
・ウィルトンカーペット
・ダブルフェースカーペット
・アキスミンスターカーペット

バイル形状
・カットバイル
・ループバイル
・カット/ループバイル

備考

20. ゴム床タイル

種類
・単層品・積層品
色柄
厚さ(mm)
・3.0・4.5・6.0・9.0
寸法(mm)
・織じゅうたん

織り方
・ウィルトンカーペット
・ダブルフェースカーペット
・アキスミンスターカーペット

バイル形状
・カットバイル
・ループバイル
・カット/ループバイル

備考

21. カーペット敷き

色柄
※模様のない無地
・
バイル糸の繊維種等
※無地の織りじゅうたんの種別(・A種・B種・C種)
・
帯電性
・適用する・適用しない
織じゅうたんの接合方法
※ヒートボンド工法
・つづり縫い
下敷き材
※反毛フェルト(JIS L 3204)の第2種1号 呼び厚さ 8mm
・
・タフテッドカーペット
バイル形状 バイル長さ(mm) 工法 帯電性 備考
・カットバイル ・5～7 ・※全面接着工法 ・適用
・ループバイル ・4～6 ・グリッパー工法 ・非適用
・カット、ループ併用

下敷き材(グリッパー工法の場合)
※反毛フェルト(JIS L 3204)の第212号 呼び厚さ 8mm
・
タフテッドカーペット用接着剤のホルムアルデヒド放散量
※F☆☆☆☆
・
・タイルカーペット
バイルの形状 種類 施工箇所 寸法(mm) 総厚さ(mm) 備考
※ループバイル ※第一種 ※500×500 ※6.5
・第二種
・カットバイル ・第一種 ※500×500 ※6.5
・第二種
・カット・ループ併用 ・第一種 ※500×500 ※6.5
・第二種

タイルカーペット用接着剤のホルムアルデヒド放散量
※F☆☆☆☆
・
タイルカーペットの敷き方
平場
※市松敷き
・模様流し
・
階段部分
※模様流し
・市松敷き
・
見切り、押え金物
材質()
種類()
形状等
※図示による

タイルカーペット用接着剤のホルムアルデヒド放散量
※F☆☆☆☆
・
タイルカーペットの敷き方
平場
※市松敷き
・模様流し
・
階段部分
※模様流し
・市松敷き
・
見切り、押え金物
材質()
種類()
形状等
※図示による

22. 合成樹脂塗床

種類 施工箇所 工法 仕上りの種類
・厚膜型塗床材 弾性かつ樹脂系塗床 ※平滑仕上げ
・防滑仕上げ
・つや消し仕上げ
・厚膜型塗床材 球状樹脂系塗床 ・薄膜流しのペ工法 ・平滑仕上げ
・厚膜流しのペ工法 ・防滑仕上げ
・樹脂モルタル工法
・薄膜型塗床材 ※平滑仕上げ
塗床材のホルムアルデヒド放散量
※F☆☆☆☆

種類 施工箇所 工法 仕上りの種類
・厚膜型塗床材 弾性かつ樹脂系塗床 ※平滑仕上げ
・防滑仕上げ
・つや消し仕上げ
・厚膜型塗床材 球状樹脂系塗床 ・薄膜流しのペ工法 ・平滑仕上げ
・厚膜流しのペ工法 ・防滑仕上げ
・樹脂モルタル工法
・薄膜型塗床材 ※平滑仕上げ
塗床材のホルムアルデヒド放散量
※F☆☆☆☆

23. フローリング張り

フローリングのホルムアルデヒドの放散量等
※改修標準仕様書6.11.2(2)による

各工法に使用する接着剤のホルムアルデヒドの放散量
※F☆☆☆☆
・単層フローリング (フローリングボード1等)
工法
・釘留め工法(・根太張り・直張り)
・接着工法
樹種
※なら
・単層フローリング (フローリングブロック1等)
樹種
・厚さ(mm)
・大きさ
・複合フローリング
工法
・釘留め工法(・根太張り・直張り)
・接着工法
樹種
※なら
種別
・A種・B種・C種
接着工法の場合の不陸緩和材
※合成樹脂発泡シート
・現場塗装仕上げ
※ウレタン樹脂ワニス塗り
・オイルステインの上、ワックス塗り
・生地のままワックス塗り

フローリングのホルムアルデヒドの放散量等
※改修標準仕様書6.11.2(2)による

各工法に使用する接着剤のホルムアルデヒドの放散量
※F☆☆☆☆
・単層フローリング (フローリングボード1等)
工法
・釘留め工法(・根太張り・直張り)
・接着工法
樹種
※なら
・単層フローリング (フローリングブロック1等)
樹種
・厚さ(mm)
・大きさ
・複合フローリング
工法
・釘留め工法(・根太張り・直張り)
・接着工法
樹種
※なら
種別
・A種・B種・C種
接着工法の場合の不陸緩和材
※合成樹脂発泡シート
・現場塗装仕上げ
※ウレタン樹脂ワニス塗り
・オイルステインの上、ワックス塗り
・生地のままワックス塗り

24. 量敷き

種類
・A種・B種・C種・D種(畳床:・KT-I・KT-II・KT-III・KT-K・KT-N)
下地の種類
・標準仕様書表12.6.1による床組
・ポリスチレンフォーム床下地(ノンフロン)
・
畳表及び畳床はホルムアルデヒド、アセトアルデヒド及びビスチレンを発散しないか、発散が極めて少ない材料を使用したものとする。
衝撃緩和型畳(畳表:・C1・C2)
MDF及びパーティクルボードのホルムアルデヒド放散量
※F☆☆☆☆
合板のホルムアルデヒド放散量
※改修標準仕様書6.13.2(2)(イ)の(a)～(d)のいずれか
・
接着剤のホルムアルデヒド放散量
※F☆☆☆☆
表面への化粧張り等の加工
※図示による

種類
・A種・B種・C種・D種(畳床:・KT-I・KT-II・KT-III・KT-K・KT-N)
下地の種類
・標準仕様書表12.6.1による床組
・ポリスチレンフォーム床下地(ノンフロン)
・
畳表及び畳床はホルムアルデヒド、アセトアルデヒド及びビスチレンを発散しないか、発散が極めて少ない材料を使用したものとする。
衝撃緩和型畳(畳表:・C1・C2)
MDF及びパーティクルボードのホルムアルデヒド放散量
※F☆☆☆☆
合板のホルムアルデヒド放散量
※改修標準仕様書6.13.2(2)(イ)の(a)～(d)のいずれか
・
接着剤のホルムアルデヒド放散量
※F☆☆☆☆
表面への化粧張り等の加工
※図示による

25. セッコウボードその他のボード及び合板張り

種類等 厚さ(mm)、規格等
木質系セメント板
・木毛セメント板 ※図示による
・15・20・25
・硬質(HW)・中質(MW)・普通(NW)
・木片セメント板 ※図示による
・12・15・18・21・30
繊維強化セメント板
○けい酸カルシウム板(タイプ2)
普通ボード 0.8FK ※図示による 6・8
火山性ガラス質複層板
・火山性ガラス質複層板
種類 ※図示による
・
繊維板
・ミディアム密度ファイバーボード(MDF) ※図示による
・3・7・9・12
・ハードボード
・スタンダードボード(無処理)
・素地ハードボード
・未研磨板(RN)
・研磨板(RS)
・内装用化粧ハードボード(DI)
・テンボードボード(処理)
・素地ハードボード
・未研磨板(RN)
・研磨板(RS)
・外装用化粧ハードボード(DE)
・インシュレーションボード
・A級インシュレーションボード(A-IB) ※図示による
・9・12・15・18
・天井仕上げ材
・内装仕上げ材

パーティクルボード
・単板張りパーティクルボード ※図示による
・10・12・15・18
・無研磨板(VN)
・研磨板(VS)
・化粧パーティクルボード
・単板オーバーレイ(DV)
・プラスチックオーバーレイ(DO)
・塗装(DC)
※図示による
・10(難燃)・12(難燃)
・

吸音材料
・ロックウール化粧吸音板(DR) ・9(不燃)・12(不燃)
・フラットタイプ
・凹凸タイプ
・12(不燃)・15(不燃)
・ロックウール吸音ボード(1号) ※図示による 25
・グラスウール吸音ボード(32K) ・25(ガラスウール包み)・

種類等 厚さ(mm)、規格等
木質系セメント板
・木毛セメント板 ※図示による
・15・20・25
・硬質(HW)・中質(MW)・普通(NW)
・木片セメント板 ※図示による
・12・15・18・21・30
繊維強化セメント板
○けい酸カルシウム板(タイプ2)
普通ボード 0.8FK ※図示による 6・8
火山性ガラス質複層板
・火山性ガラス質複層板
種類 ※図示による
・
繊維板
・ミディアム密度ファイバーボード(MDF) ※図示による
・3・7・9・12
・ハードボード
・スタンダードボード(無処理)
・素地ハードボード
・未研磨板(RN)
・研磨板(RS)
・内装用化粧ハードボード(DI)
・テンボードボード(処理)
・素地ハードボード
・未研磨板(RN)
・研磨板(RS)
・外装用化粧ハードボード(DE)
・インシュレーションボード
・A級インシュレーションボード(A-IB) ※図示による
・9・12・15・18
・天井仕上げ材
・内装仕上げ材

パーティクルボード
・単板張りパーティクルボード ※図示による
・10・12・15・18
・無研磨板(VN)
・研磨板(VS)
・化粧パーティクルボード
・単板オーバーレイ(DV)
・プラスチックオーバーレイ(DO)
・塗装(DC)
※図示による
・10(難燃)・12(難燃)
・

吸音材料
・ロックウール化粧吸音板(DR) ・9(不燃)・12(不燃)
・フラットタイプ
・凹凸タイプ
・12(不燃)・15(不燃)
・ロックウール吸音ボード(1号) ※図示による 25
・グラスウール吸音ボード(32K) ・25(ガラスウール包み)・

26. 壁紙張り

天井のボード類(ロックウール吸音板を除く)の重ね張りを行う場合
※図示による
合板類の張付け
・A種・B種
せっこうボードの目地工法等
目地工法の種類
※仕上表による
突付け工法及び目透し工法のエッジの種類
・ペベルエッジ・スクエアエッジ
化粧加工の方法(・オーバーレイ・プリント・塗装)
ホルムアルデヒド放散量
※F☆☆☆☆
壁紙の種類 備考
施工箇所 紙 繊維 塩化ビニル 有機 他 防火性能
・ ・ ・ ・ ・ ・ 不燃・準不燃・難燃
・ ・ ・ ・ ・ ・ 不燃・準不燃・難燃
・ ・ ・ ・ ・ ・ 不燃・準不燃・難燃
・ ・ ・ ・ ・ ・ 不燃・準不燃・難燃
・ ・ ・ ・ ・ ・ 不燃・準不燃・難燃

モルタル及びせっこうプラスター面の素地ごしらえの種類
※B種・A種
コンクリート面の素地ごしらえの種類
※B種・A種
せっこうボード面及びその他のボード面の素地ごしらえの種類
※B種・A種

モルタル
・現場調査材料
・既調査材料
既製目地材
・設ける 施工箇所() 形状(※図示による)
・設けない
床の目地
・設ける 目地割り
※2m程度(最大目地間隔3m程度)
・
目地の種類
※押し目地
・
・設けない
壁面の仕上げ厚又は全塗り厚が25mmを超える場合の下地処理
・図示による

伸縮目地の位置
床タイル
※縦、横とも4m以内ごと
・図示による
・
床タイル以外
・図示による
・
伸縮調整目地のシーリング材、目地寸法は改修特記仕様書第3章による
見本焼き
・行う(施工箇所:) ・行わない
試験張り
・行う(範囲、仕様等は図示による) ・行わない
・セメントモルタルによるタイル(セラミックタイル)張り
タイルの形状、寸法等
施工箇所 種類 形状/寸法(mm) 再生材料の適用 I 類 II 類 III 類 無 ゆう 有 無 標準特注 有 無 耐燃性 耐滑性
備考欄

標準的な曲がりの役物は一体成形とする

天井のボード類(ロックウール吸音板を除く)の重ね張りを行う場合
※図示による
合板類の張付け
・A種・B種
せっこうボードの目地工法等
目地工法の種類
※仕上表による
突付け工法及び目透し工法のエッジの種類
・ペベルエッジ・スクエアエッジ
化粧加工の方法(・オーバーレイ・プリント・塗装)
ホルムアルデヒド放散量
※F☆☆☆☆
壁紙の種類 備考
施工箇所 紙 繊維 塩化ビニル 有機 他 防火性能
・ ・ ・ ・ ・ ・ 不燃・準不燃・難燃
・ ・ ・ ・ ・ ・ 不燃・準不燃・難燃
・ ・ ・ ・ ・ ・ 不燃・準不燃・難燃
・ ・ ・ ・ ・ ・ 不燃・準不燃・難燃
・ ・ ・ ・ ・ ・ 不燃・準不燃・難燃

モルタル及びせっこうプラスター面の素地ごしらえの種類
※B種・A種
コンクリート面の素地ごしらえの種類
※B種・A種
せっこうボード面及びその他のボード面の素地ごしらえの種類
※B種・A種

モルタル
・現場調査材料
・既調査材料
既製目地材
・設ける 施工箇所() 形状(※図示による)
・設けない
床の目地
・設ける 目地割り
※2m程度(最大目地間隔3m程度)
・
目地の種類
※押し目地
・
・設けない
壁面の仕上げ厚又は全塗り厚が25mmを超える場合の下地処理
・図示による

伸縮目地の位置
床タイル
※縦、横とも4m以内ごと
・図示による
・
床タイル以外
・図示による
・
伸縮調整目地のシーリング材、目地寸法は改修特記仕様書第3章による
見本焼き
・行う(施工箇所:) ・行わない
試験張り
・行う(範囲、仕様等は図示による) ・行わない
・セメントモルタルによるタイル(セラミックタイル)張り
タイルの形状、寸法等
施工箇所 種類 形状/寸法(mm) 再生材料の適用 I 類 II 類 III 類 無 ゆう 有 無 標準特注 有 無 耐燃性 耐滑性
備考欄

標準的な曲がりの役物は一体成形とする

27. モルタル塗り

モルタル
・現場調査材料
・既調査材料
既製目地材
・設ける 施工箇所() 形状(※図示による)
・設けない
床の目地
・設ける 目地割り
※2m程度(最大目地間隔3m程度)
・
目地の種類
※押し目地
・
・設けない
壁面の仕上げ厚又は全塗り厚が25mmを超える場合の下地処理
・図示による

伸縮目地の位置
床タイル
※縦、横とも4m以内ごと
・図示による
・
床タイル以外
・図示による
・
伸縮調整目地のシーリング材、目地寸法は改修特記仕様書第3章による
見本焼き
・行う(施工箇所:) ・行わない
試験張り
・行う(範囲、仕様等は図示による) ・行わない
・セメントモルタルによるタイル(セラミックタイル)張り
タイルの形状、寸法等
施工箇所 種類 形状/寸法(mm) 再生材料の適用 I 類 II 類 III 類 無 ゆう 有 無 標準特注 有 無 耐燃性 耐滑性
備考欄

標準的な曲がりの役物は一体成形とする

モルタル
・現場調査材料
・既調査材料
既製目地材
・設ける 施工箇所() 形状(※図示による)
・設けない
床の目地
・設ける 目地割り
※2m程度(最大目地間隔3m程度)
・
目地の種類
※押し目地
・
・設けない
壁面の仕上げ厚又は全塗り厚が25mmを超える場合の下地処理
・図示による

伸縮目地の位置
床タイル
※縦、横とも4m以内ごと
・図示による
・
床タイル以外
・図示による
・
伸縮調整目地のシーリング材、目地寸法は改修特記仕様書第3章による
見本焼き
・行う(施工箇所:) ・行わない
試験張り
・行う(範囲、仕様等は図示による) ・行わない
・セメントモルタルによるタイル(セラミックタイル)張り
タイルの形状、寸法等
施工箇所 種類 形状/寸法(mm) 再生材料の適用 I 類 II 類 III 類 無 ゆう 有 無 標準特注 有 無 耐燃性 耐滑性
備考欄

標準的な曲がりの役物は一体成形とする

28. タイル張り

伸縮目地の位置
床タイル
※縦、横とも4m以内ごと
・図示による
・
床タイル以外
・図示による
・
伸縮調整目地のシーリング材、目地寸法は改修特記仕様書第3章による
見本焼き
・行う(施工箇所:) ・行わない
試験張り
・行う(範囲、仕様等は図示による) ・行わない
・セメントモルタルによるタイル(セラミックタイル)張り
タイルの形状、寸法等
施工箇所 種類 形状/寸法(mm) 再生材料の適用 I 類 II 類 III 類 無 ゆう 有 無 標準特注 有 無 耐燃性 耐滑性
備考欄

標準的な曲がりの役物は一体成形とする

伸縮目地の位置
床タイル
※縦、横とも4m以内ごと
・図示による
・
床タイル以外
・図示による
・
伸縮調整目地のシーリング材、目地寸法は改修特記仕様書第3章による
見本焼き
・行う(施工箇所:) ・行わない
試験張り
・行う(範囲、仕様等は図示による) ・行わない
・セメントモルタルによるタイル(セラミックタイル)張り
タイルの形状、寸法等
施工箇所 種類 形状/寸法(mm) 再生材料の適用 I 類 II 類 III 類 無 ゆう 有 無 標準特注 有 無 耐燃性 耐滑性
備考欄

標準的な曲がりの役物は一体成形とする

29. セラミックタイル張り

壁タイル張りの工法
内装タイル
・密着張り・改良圧着張り
内装タイル以外のユニットタイル
・マスク張り・モザイクタイル張り
・有機系接着剤によるタイル(セラミックタイル)張り
タイルの形状、寸法等
施工箇所 種類 形状/寸法(mm) 再生材料の適用 I 類 II 類 III 類 無 ゆう 有 無 標準特注 有 無 耐燃性 耐滑性
備考欄

標準的な曲がりの役物は一体成形とする

内装タイル接着剤張りの接着剤のホルムアルデヒド放散量
※F☆☆☆☆
・
床厚(mm)
・

壁タイル張りの工法
内装タイル
・密着張り・改良圧着張り
内装タイル以外のユニットタイル
・マスク張り・モザイクタイル張り
・有機系接着剤によるタイル(セラミックタイル)張り
タイルの形状、寸法等
施工箇所 種類 形状/寸法(mm) 再生材料の適用 I 類 II 類 III 類 無 ゆう 有 無 標準特注 有 無 耐燃性 耐滑性
備考欄

標準的な曲がりの役物は一体成形とする

内装タイル接着剤張りの接着剤のホルムアルデヒド放散量
※F☆☆☆☆
・
床厚(mm)
・

7
塗装改修工事

1. 材料

2. 下地調整

3. 素地ごしらえ

4. 錆止め塗料塗り

屋内で使用する塗料のホルムアルデヒド放散量
※F☆☆☆☆
防火材料
※屋内の壁、天井仕上げは防火材料とする。
・次の箇所を除き防火材料とする。(箇所:)
塗替えRB種の場合の既存塗膜の除去範囲
※劣化部分は除去し、活膜部分は残す
・図示による
既存錆止め塗料の鉛含有量調査
・行う(箇所)
・行わない
下地調整
下地面の種類 下地調整の種類 塗替え ひび割れ部の補修
木部 ※不透明塗料塗りの場合はRB種
鉄鋼面 ※RB種
亜鉛めっき鋼面 ※RB種
亜鉛めっき鋼面(鋼製建具等) ※RB種
モルタル面及びせっこうプラスター面 ※RB種
コンクリート面(DP以外) ※RB種
ALCパネル面
押出成形セメント板面 ・RA種・RB種
コンクリート面(DP) ・RC種
せっこうボード面及びその他ボード面 ※RB種
7.3.2～7)
下地面等 種類
木部 不透明塗料塗りの場合 ※A種・B種
透明塗料塗りの場合 ※B種・A種
鉄鋼面(DP以外) ※C種・A種・B種
鉄鋼面(DP) ※B種・A種・C種
亜鉛めっき鋼面 ・A種・B種
モルタル面及びせっこうプラスター面 ※B種・A種
コンクリート面(DP以外)及びALCパネル面 ※B種・A種
押出成形セメント板面及びコンクリート面(DP) ・A種・B種
コンクリート面(DPのみ) ※B種・A種
せっこうボード面及び目地:継目処理工法 ※A種・B種
その他ボード面 目地:継目処理工法以外 ※B種・A種
錆止め塗料塗りの種類
素地面 塗装の種類 塗替え 塗料の種類 工程の種類
SOP 塗替え ※A種・B種 ※C種
(工程の種類は表7.4.3) 新規見え掛り A種 ※A種
新規見え隠れ A種 ※B種
EP-G 塗替え ※B種・A種 ※C種
(工程の種類は表7.4.3) 新規見え掛り ※B種・A種 ※A種
新規見え隠れ ※B種・A種 ※B種
鉄鋼面 DP 塗替え 7.4.2(1)(イ)(b)による ・B種(下地調整RB種)
(工程の種類は表7.4.4) 新規 7.4.2(1)(イ)(a)による ・A種
SOP 塗替え ※A種・B種 ※C種
(工程の種類は表7.4.5) 新鋼製建具等 ※A種・B種 ※A種
規その他 B種 ※B種
EP-G 塗替え C種 ・C種
(工程の種類は表7.4.5) 新鋼製建具等 C種 ・C種
規その他 C種 ・C種
DP 塗替え B種 ・
(工程の種類は表7.4.6) 新規 B種 ・

1. 材料

2. 下地調整

3. 素地ごしらえ

4. 錆止め塗料塗り

屋内で使用する塗料のホルムアルデヒド放散量
※F☆☆☆☆
防火材料
※屋内の壁、天井仕上げは防火材料とする。
・次の箇所を除き防火材料とする。(箇所:)
塗替えRB種の場合の既存塗膜の除去範囲
※劣化部分は除去し、活膜部分は残す
・図示による
既存錆止め塗料の鉛含有量調査
・行う(箇所)
・行わない
下地調整
下地面の種類 下地調整の種類 塗替え ひび割れ部の補修
木部 ※不透明塗料塗りの場合はRB種
鉄鋼面 ※RB種
亜鉛めっき鋼面 ※RB種
亜鉛めっき鋼面(鋼製建具等) ※RB種
モルタル面及びせっこうプラスター面 ※RB種
コンクリート面(DP以外) ※RB種
ALCパネル面
押出成形セメント板面 ・RA種・RB種
コンクリート面(DP) ・RC種
せっこうボード面及びその他ボード面 ※RB種
7.3.2～7)
下地面等 種類
木部 不透明塗料塗りの場合 ※A種・B種
透明塗料塗りの場合 ※B種・A種
鉄鋼面(DP以外) ※C種・A種・B種
鉄鋼面(DP) ※B種・A種・C種
亜鉛めっき鋼面 ・A種・B種
モルタル面及びせっこうプラスター面 ※B種・A種
コンクリート面(DP以外)及びALCパネル面 ※B種・A種
押出成形セメント板面及びコンクリート面(DP) ・A種・B種
コンクリート面(DPのみ) ※B種・A種
せっこうボード面及び目地:継目処理工法 ※A種・B種
その他ボード面 目地:継目処理工法以外 ※B種・A種
錆止め塗料塗りの種類
素地面 塗装の種類 塗替え 塗料の種類 工程の種類
SOP 塗替え ※A種・B種 ※C種
(工程の種類は表7.4.3) 新規見え掛り A種 ※A種
新規見え隠れ A種 ※B種
EP-G 塗替え ※B種・A種 ※C種
(工程の種類は表7.4.3) 新規見え掛り ※B種・A種 ※A種
新規見え隠れ ※B種・A種 ※B種
鉄鋼面 DP 塗替え 7.4.2(1)(イ)(b)による ・B種(下地調整RB種)
(工程の種類は表7.4.4) 新規 7.4.2(1)(イ)(a)による ・A種
SOP 塗替え ※A種・B種 ※C種
(工程の種類は表7.4.5) 新鋼製建具等 ※A種・B種 ※A種
規その他 B種 ※B種
EP-G 塗替え C種 ・C種
(工程の種類は表7.4.5) 新鋼製建具等 C種 ・C種
規その他 C種 ・C種
DP 塗替え B種 ・
(工程の種類は表7.4.6) 新規 B種 ・

記 事

一級建築士事務所
宮城県知事 登録 第23110182号
板垣 俊也 登録 第 207908号

設計者 承認 設計部 月日 縮尺 工事名 図面名 No.
R7.8 A1→ A3→ 令和7年度 道の駅くた 地域振興機能施設改修工事 建築改修工事特記仕様書(6) A-06

7
塗装改修工事

⑤ 塗装

8
耐震改修工事
共通事項

1. 適用範囲

2. 既存部分の処理等

8-1
鉄筋工事

① 鉄筋

2. 溶接金網

③ 鉄筋の継手

4. 鉄筋の定着

5. 鉄筋のかぶり厚さ及び間隔(溶接金網を含む)

6. 圧接完了後の試験

7. 機械式継手

鉄筋の種類等

鉄線の形状等

鉄線の継手の方法等

鉄筋の定着長さ

最小かぶり厚さ

超音波探傷試験

適用箇所

H12建告第1463号に適合する性能

種類

工法

鉄筋相互のあき

品質の確認

検査

施工完了後の継手部の試験

試験の箇所数

試験項目

試験方法

溶接継手

9. 割裂補強筋

① コンクリートの種類

② コンクリートの気乾単位容積質量による種類及び強度

3. セメント

4. 骨材

5. 混和材料

6. 構造体用モルタル

適用箇所

H12建告第1463号に適合する性能

溶接継手の工法

施工完了後の継手部の試験

試験対象

試験項目

試験方法

不合格となった場合の措置

形状

種類の記号

呼び径、曲げ直径、ピッチ

コンクリートの類別

設計基準強度

スランプ

気乾単位容積質量

適用箇所

構造体強度補正值

軽量コンクリート

構造体強度補正值

種類

アルカリシリカ反応性による区分

混合剤

混合剤の種類

混合材

構造体用モルタル

7. 暑中コンクリート

8. マスコンクリート

9. 無筋コンクリート

10. 流動化コンクリート

11. 打継ぎの位置、ひび割れ誘発目地、打継目地

12. 構造体コンクリートの仕上り

13. 打増し厚さ(打放し仕上部)

⑭ 型枠

15. 型枠の加工及び組立

構造体強度補正值

適用箇所

セメントの種類

スランプ

設計基準強度

構造体強度補正值

コンクリートの仕上りの平たんさ(柱・梁・壁)

コンクリートの仕上りの平たんさ(床)

せき板の材料及び厚さ

シアコネクタをセパレーターとして使用

<8. 10. 2>

(6. 13. 1) (6. 13. 2)

<8. 11. 1>

(6. 15. 1)

(6. 6. 4) (6. 8. 1) (9. 7. 3)<3. 7. 3>

<8. 1. 4>

<8. 7. 8>

(6. 8. 2)<8. 2. 7>

<8. 7. 8>

記事

株式会社 楠山設計

仙台市青葉区一番町三丁目3番16号
オー・エックス芭蕉の辻ビル
TEL (022) 224-1207

一級建築士事務所
宮城県知事登録 第23110182号
坂垣 俊也 登録 第 207908号

設計者

承認

設計部

月日

R7. 8

A1⇒
A3⇒

令和7年度 道の駅くた地域振興機能施設改修工事

建築改修工事特記仕様書（7）

No.

A-07

16. コンクリートの打込み工法等	コンクリートの打設工法の種類 補強工法 打設工法 部位 ・現場打ちコンクリート壁の増設工事 ・工法指定なし ・流込み工法 8.21.8(1)(7),(2) ・圧入工法 8.21.8(1)(4),(3) ・柱補強工事(溶接金網巻き及び溶接封鎖閉鎖フープ巻き工法) ・工法指定なし ・流込み工法 8.21.8(1)(7),(2) ・圧入工法 8.21.8(1)(4),(3) ・工法指定なし ・流込み工法 8.21.8(1)(7),(2) ・圧入工法 8.21.8(1)(4),(3) 鋼板巻き工法及び帯板巻き付け工法での型枠等 柱頭及び柱脚の隙間の寸法 ・図示による() 柱頭及び柱脚の隙間部間の型枠 ・発泡プラスチック保温材等を埋込む 既存柱外周部あと打ちコンクリート又は構造体用モルタルの厚さ ・図示による() 補強後の仕上げ ・図示による()			7. アンカーボルト (7.2.4)(7.3.2) ・構造用アンカーボルト 種類 ・ABR400 ・ABR490 ・建方用アンカーボルト 種類 ・SS400 アンカーボルト及びナットのねじの公差域クラス及び仕上げの程度 ※標準仕様書 表7.2.3による ・標準仕様書7.2.4以外のアンカーボルト適用箇所 ・図示による() 種類 ・SS400 アンカーボルト及びナットのねじの公差域クラス及び仕上げの程度 ※標準仕様書 表7.2.3による ボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等 ・図示による()	17. 耐火被覆 種類、材料、工法等 種類 材料・工法 性能(耐火時間) 適用箇所(部位・部分) ・耐火材吹付け ・乾式吹付けロックウール ・半乾式吹付けロックウール ・湿式ロックウール ・耐火板張り ・繊維混入けい酸カルシウム板 ・耐火材巻付け ・高断熱ロックウール ・ラス張りモルタル塗り ・耐火塗料 構造用アンカーボルトの形状及び寸法 ・図示による() 構造用アンカーフレームの形状及び寸法 ・図示による() 建方用アンカーボルトの形状及び寸法 ・図示による() 建方用アンカーボルトの保持及び埋込み工法 種別 ・A種 ・B種 柱底均しモルタル厚さ及び工法の種別 厚さ 種別 ※A種 ・B種 ・図示による()	8-5 グラウト工事 1. 柱底均しモルタル及びグラウト材 ・柱底均しモルタル ※無収縮モルタル ・グラウト材 無収縮グラウト材の材質等 混和材 セメント系(酸化カルシウム及びカルシウム・サルフォ・アルミネート等によって膨張する性質を利用するもの)とする。 セメント JIS R 5210「ボルトランドセメント」に適合した普通または早強ボルトランドセメントとする。 砂 土木学会コンクリート標準示方書に定められた品質を有するもので特に精選されたものを絶対乾燥状態で使用する。 ただし、現場調合形に使用される砂の乾燥状態は、規定しない。 無収縮グラウト材の品質及び試験方法 コンシステンシー Jロートによる流下時間 練混ぜ完了から3分以内の値 : 8±2秒 ブリージング 練混ぜ2時間後のブリージング率 : 2.0%以下 凝結時間 凝結開始時間 : 1時間以上 終結時間 : 10時間以内 無収縮性 材齢 7日 収縮しない 圧縮強度 材齢 3日 20.0 N/mm ² 以上 材齢 28日 40.0 N/mm ² 以上 塩化物量 0.30kg/m ³ 以下 試験方法 1)NEXCO試験方法 試験法312-1999「無収縮モルタル品質管理試験方法」による。プレミックス形と現場調合形で混和材が同一の場合の試験はプレミックス形のみとする。 2)塩化物量の試験は、JIS A 1144「フレッシュコンクリート中の水の塩化物イオン濃度試験方法」による。
	8-3 鉄骨工事 1. 鉄骨製作工場 鉄骨製作工場の加工能力 ※建築基準法第68条の25に基づき国土交通大臣から構造方法等の認定を取得している鉄骨製作工場又は同等以上の能力のある工場 ()グレード以上 ・監督職員の承諾する工場 2. 鉄骨製作工場における施工管理技術者 ※配置する 3. 鋼材 種類等 種類の記号 適用箇所(主要な部分) 規格 ・JISによる ・JISによる ・JISによる ・JISによる ・JISによる ・JISによる ・JISによる 4. 高力ボルト 高力ボルトの種類 ※トルシア形高力ボルト ・JIS形高力ボルト ボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等 ・図示による() 摩擦面の処理方法 ・改修標準仕様書8.14.2(1)による。 ・すべり試験の実施 ・すべり係数試験 ・すべり耐力試験 すべり試験を実施する場合、改修標準仕様書8.14.2(1)(4)による摩擦面の確認は、本試験で作成した対比試験片で行うこと。 5. 普通ボルト ボルト及びナットの種類 ・標準仕様書 表7.2.3(JIS附属書品)又は次による ボルトの規格は、JIS B 1180とする。 ボルトの種類は、呼び径六角ボルト又は全ねじ六角ボルトとし、材料は鋼とする。 ボルトの強度区分は、4.6又は4.8とする。なお、呼び径六角ボルトの最大寸法は、ボルトの径の値以下とする。 ナットの規格は、JIS B 1181とする。 ナットの種類は、六角ナット-Cとし、材料は鋼とする。 座金 ※JIS B 1256による ボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等 ・図示による() 母屋又は胴縁の取付けに使用するボルトの孔径 ※ねじの呼び径+1.0mm 6. 溶融亜鉛めっき高力ボルト ボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等 ・図示による() 摩擦面の処理方法 ・プラスト処理(表面粗度50μm Rz以上) ・りん酸塩処理 ・すべり試験の実施 ・すべり係数試験 ・すべり耐力試験 すべり試験を実施する場合、改修標準仕様書8.20.5(1)(7)又は(4)による摩擦面の確認は、本試験で作成した対比試験片で行うこと。	9. スタッド 種類等 呼び名 呼び長さ(mm) 適用箇所 ・16 ・19 ・22 10. 製作精度 鉄骨の製作精度は、JASS 6 付則 6 [鉄骨精度検査基準]に加えて、次による 通しダイヤフラムの突合せ継手の食い違いの寸法 ※H12建告第1464号第二号イ(2)による アンダーカットの寸法 ※H12建告第1464号第二号イ(3)による 食い違い・仕口のずれの検査方法及び補強方法 ・「突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」による 11. 仮組 仮組を行う範囲 ・図示による() 12. 溶接作業を行う技能資格者 技量付加試験 試験の要領 ・図示による() 13. 溶接接合 開先の形状 ・図示による() ・鋼製エンドタブの切断する部分 切断する箇所 ・図示による() 切断範囲 ・鋼製エンドタブ、裏当て金等は、梁フランジの端から5mm以下を残して直線状に切断する。 なお、切断線が交差する場合は、交差部をアール状に加工する。 切断面の仕上げ ・改修標準仕様書8.15.7(1)(h)(b)②による ・スカラップの形状 ・図示による() 14. 入熱、パス間温度の溶接条件 鋼材と溶接材料の組合せと溶接条件 ・図示による() 適用箇所 ・図示による() ・柱、梁、ブレースのフランジ端部の完全溶け込み溶接部 15. 溶接部の試験 平12建告第1464号第二号に関する外観試験方法等 「突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」3.5.2 受入検査による ・抜き取り検査① ※抜き取り検査② JASS 6 付則 6 [鉄骨精度検査基準]の付表3「溶接」に関する試験方法等 ・JASS 6 10.4 [受入検査]e. 溶接部の外観検査(1)から(5)までによる。ただし、完全溶込み溶接部の外観検査の抜取箇所は、超音波探傷試験の抜取箇所と同一とする。外観試験の不合格箇所は、すべて標準仕様書7.6.13による補修を行い、再試験する。 完全溶込み溶接部の超音波探傷試験 ・工場溶接の場合 ※全数 ・工場現場溶接の場合 ※全数 16. 錆止め塗装 塗料の範囲 耐火被覆材の接着する面の塗装範囲 ・図示による() 耐火被覆材の接着する面以外の塗装範囲 ※改修標準仕様書8.17.2(1)による ・図示による() 塗料の種別 ・下記以外の鉄鋼面は、7章「塗装改修工事」による ・鉄骨鉄筋コンクリート造の鋼製スリーブで鉄骨に溶接されたものの内側の錆止め塗料の種別 ※A種 ・耐火被覆材が接着する面の塗料の種別	18. アンカーボルト等の設置等 (7.10.3) 19. 鉄骨ブレース設置後の仕上げ (8.22.9) ・図示による() 8-4 ① あと施工アンカー 材料等 ○金属系アンカー ・引張耐力 ・せん断耐力 ・アンカー本体の径及び埋込み長さ ・図示による() ・図示による(			

8-8 土工事及び地業工事	1. 埋戻し及び盛土	材料及び工法 ・材料() 工法() ※改修標準仕様書表8. 28. 1による ・A種 適用場所() ・B種 適用場所() ・C種 適用場所() 土質() 受渡場所() ・D種 適用場所() (品質 細粒分(75μm以下)の含有率(重量百分率)の上限を50%未満とする)	9 環境配慮改修工事	1. 石綿含有建材の除去工事	施工調査 ※石綿含有建材の事前調査 工事着手に先立ち、目視及び貸与する設計図書等によって石綿を含有している吹き付け材、成形板、建築材料等の使用の有無を調査する。 調査範囲() 図示() 貸与資料() ・石綿粉じん濃度測定 測定時期、場所及び測定点 適用 測定名称 測定時期 測定場所 測定箇所数(各施工箇所ごと) ・測定 1 処理作業室内 処理作業室内 点 ・測定 2 調査対象室外部の付近 点 ・測定 3 処理作業室内 点 ・測定 4 セキュリティーゾーン入口 点 ・測定 5 処理作業中 集じん・排気装置の排出口(処理作業室外の場合) 出口吹出し風速1m/s以下の位置 点 ・測定 6 処理作業室内・施工区画周辺・敷地境界 点 ・測定 7 処理作業後(シート養生中) 処理作業室内 点 ・測定 8 処理作業後(シート撤去後 1週間以降) 処理作業室内 点 ・測定 9 調査対象室外部の付近 点 測定方法 ・自動測定器による測定 測定名称 測定方法 ・測定 4 粉じん相対濃度計(デジタル粉じん計)、パーティクルカウンター、繊維状粒子自動測定器(リアルタイムファイバーモニター)等の粉じんを迅速に測定できる機器を用いた測定 ・測定 5 ・JIS K 3850-1に基づいた測定 測定名称 メンブレンフィルタ 試料の吸引流量(L/min) 試料の吸引時間(min) ・測定 4 25 5 30 ・測定 5 47 10 120 ・測定 47 10 240 ・測定 ・測定 ・測定	2. 断熱・防露改修工事	・石綿含有仕上塗材又は石綿含有成形板(下地調整材)の除去 除去対象範囲 ・図示による 除去工法 養生方法 除去した石綿含有仕上塗材の処分 ・埋立処分(安定型最終処分場) ・埋立処分(管理型最終処分場) ・中間処理(溶融施設又は無害化処理施設)	5. 屋上緑化改修工事	植栽基盤及び材料 ・屋上緑化軽量システム 芝及び地被類の種類等 ※図示による 見切り材、舗装材、排水孔、マルチング材等 ※図示による かん水装置 ・設置する(種類) 既存保護層の撤去 ・行う ・行わない 新植した芝及び地被類の枯補償の期間 ※行渡しの日から1年 適用範囲：歩道 既存舗装の撤去及び再利用 ※図示による 路床 路床の材料 種別 材料 厚さ(mm) ・盛土 ・A種 ※B種 ・C種 ・D種 ・図示による ・凍上抑制層 ※再生クラッシャーラン ・図示による ・クラッシャーラン ・切込み砂利 ・砂 ・フィルター層 ※砂 ・図示による (凍上抑制層に用いる材料に砂を用いる場合の粒度試験) ・行う ※行わない ・路床安定処理 ・適用する ・適用しない 安定処理の方法 ・置き換え工法 ・安定処理工法 路床安定処理用添加材料 種類 ※普通ポルトランドセメント ・高炉セメントB種 ・フライアッシュセメントB種 ・生石灰(・特号 ・1号) ・消石灰(・特号 ・1号) 添加量 ・ kg/m3 (目標CBR ・3以上) 目標CBRを満足する添加量の確認方法 ・安定処理土のCBR試験 ・ジオテキスタイル 単位面積質量 ・60g/㎡以上 厚さ(mm) ・0.5~1.0 引張強さ ・98N/5cm (10kgf/5cm) 以上 透水係数 ・1.5×10 ⁻¹ cm/sec以上 試験 路床土の支持力比(CBR)試験 ・行う ※行わない 路床締固め度の試験 ※行う ・行わない 現場CBR試験 ・行う ・行わない 路盤 路盤の厚さ ・図示による 路盤材料(改修標準仕様書表9. 7. 3(による種別) ・クラッシャーラン ・粒度調整砕石 ※再生クラッシャーラン 再生粒度調整砕石 ・クラッシャーラン鉄鋼スラグ ・粒度調整鉄鋼スラグ ・水硬性粒度調整鉄鋼スラグ 舗装の構成 ※図示による 開粒度アスファルト混合物等の抽出試験 ・行う ※行わない 舗装の平たん性 ※著しい不陸がないもの	6. 透水性アスファルト舗装改修工事
	2. 杭地業	支持層の位置及び土質(基礎ぐいの先端位置含む) ・図示による() 杭の材料、工法、寸法、施工方法等 ・図示による() ・試験杭の位置、本数及び寸法並びに施工方法 ・図示による() ・杭の継手の箇所数、材料、工法等 ・図示による() ・杭の溶接継手 技能資格者の技量 ・図示による() 溶接部の確認 ・図示による() ・杭頭の処理 ・処理しない ・処理する 処理方法(切断にともなう補強方法含む) ・図示による() ・杭頭の中詰め材料 ・基礎のコンクリートと同調合のもの 杭の精度 水平方法の位置ずれ ・杭径の1/4かつ100mm以下 ・評定等の評価内容による 建て込み時の杭の鉛直度 ・1/100以内 ・評定等の評価内容による 記録する施工状況等 ・図示による()		2. 断熱・防露改修工事	改修特記仕様書3章による。 断熱材 断熱材の種類 断熱材の厚さ(mm) 施工箇所 ・図示による ホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆ 外装材 種類 防火性能 備考 鋼材 改修特記仕様書第8章 8-3 鉄骨工事 ・鋼材による 笠木 改修特記仕様書第3章 ・アルミニウム製笠木による 既存外壁の処置 既存外壁仕上材の撤去 ・行う ・行わない 下地の清掃 ・行う ・行わない 欠損部の改修工法 ・改修特記仕様書第4章 外壁改修工事による 不陸等の下地調整 断熱材の施工 ・断熱材製造所の仕様による 外装材の施工 ・外装材製造所の仕様による 通気層の有無 ・有(mm) ・無 外装材の外壁への取付け ・図示による 笠木の施工 ・改修特記仕様書第3章 アルミニウム製笠木による		6. 透水性アスファルト舗装改修工事			
	3. 砂利地業	材料 ※再生クラッシャーラン ・切込砂利又は切込砕石 砂利厚さ 厚 さ 適用箇所 ※60mm ・基礎下、基礎梁下、土間スラブ下、土間コンクリート下 捨コンクリート地業		3. 外断熱改修工事	断熱材打込み工法 断熱材 JIS A 9521に基づく発泡プラスチック断熱材 種類 厚さ(mm) 施工場所 断熱材現場発泡工法 断熱材の種類 ・A種1 ・A種1H 吹付け厚さ(mm) ・25 30 施工箇所 断熱材後張り工法 断熱材 JIS A 9521に基づく発泡プラスチック断熱材 種類 厚さ(mm) 断熱材にせっこうボード等を張り付けたパネル 材質 厚さ (mm) 張り付け工法 断熱材の張り付け工法 断熱材へのボードの張付け工法		3. 砂利地業			
	4. 捨コンクリート地業	捨コンクリートの厚さ 厚 さ 適用箇所 ※50mm ・基礎下、基礎梁下、土間スラブ下 コンクリートの種類 ※普通コンクリート 設計基準強度 ※18N/mm ² スラブ ※15cm又は18cm		4. 断熱・防露改修工事	フェノールフォーム断熱材又は保温材、接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆ 開口部等補修のための張付け用の接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆ 工法 断熱材打込み工法 断熱材 JIS A 9521に基づく発泡プラスチック断熱材 種類 厚さ(mm) 施工場所 断熱材現場発泡工法 断熱材の種類 ・A種1 ・A種1H 吹付け厚さ(mm) ・25 30 施工箇所 断熱材後張り工法 断熱材 JIS A 9521に基づく発泡プラスチック断熱材 種類 厚さ(mm) 断熱材にせっこうボード等を張り付けたパネル 材質 厚さ (mm) 張り付け工法 断熱材の張り付け工法 断熱材へのボードの張付け工法		4. 捨コンクリート地業			

記 事	株式会社 楠 山 設 計	仙台市青葉区一番町三丁目3番16号 オー・エックス芭蕉の辻ビル T E L (022) 224-1207	一級建築士事務所 宮城県知事 登録 第23110182号 板垣 俊也 登録 第 207908号	設 計 者	承 認	設 計 部	月 日	縮 尺	工 事 名	図 面 名	N o.
							R7. 8	A1=	令和7年度 道の駅かくた 地域振興機能施設改修工事	建築改修工事特記仕様書(9)	A-09
								A3=			

ユニット及びその他の工事

1. フリーアクセスフロア

(20. 2. 2)

施工箇所	構法	寸法 (mm)	高さ (mm)	耐震性能	所定荷重	表面仕上材
	・置敷式 ・支柱調整式	・500×500		・1. 0G ・0. 6G	・3, 000N ・5, 000N	・帯電防止床材 ・タイル・ベタ

寸法精度
※標準仕様書20. 2. 2(2) (オ) (a) ～(c) による
・以下による
 パネルの長さの寸法精度
 パネルの平面形状 (角度) の寸法精度
 フリーアクセスフロアの高さの寸法精度
帯電防止性能
・評価値 (U) ≥0. 6以上
・評価値 (U) ≥1. 2以上
感電防止性能
漏えい抵抗 (R) ≥1×10⁶Ω

2. 可動間仕切

(20. 2. 3)

構造形式による種類	構成基材の種類 スラット パネル	パネル表面仕上げ	遮音性 (dB/500Hz)	防火性能
・スタッド式 (内蔵) ・スタッド式 (露出) ・スタッドパネル式 ・パネル式		・メラミン樹脂焼付又は アクリル樹脂焼付 ・壁紙張り	・0 ・12 ・20 ・28 ・36	・不燃

パネル内に取付ける建具
・有り (※図示による)
・無し
パネル内に取り付ける建具のドアクローザー、丁番、錠前、上げ落としは、標準仕様書16章8節の建具用金物に対応する材質とする。
表面仕上材を壁紙張りとする場合の品質、性能は標準仕様書19章による。
パネル材料のホルムアルデヒド放出量
※F☆☆☆☆

3. 移動間仕切

(20. 2. 4)

走行方向	操作方法による種類	パネルと接合部の構造	総厚さ (mm)	パネル表面材質	遮音性 (dB/500Hz)
・平行方向 移動式 ・二方向 移動式	・手動式 ・電動式 ・部分電動式	・フック式 ・パネール式		・銅板 ・焼付塗装 ・壁紙張り	・36未満 ※36以上

パネル表面仕上げ材の壁紙張りの品質、性能は標準仕様書19章による。
ハンガーレールの取付け下地の補強
※取付け全重量の5倍以上の荷重に対して、使用上支障のない耐力及び変形量となるように補強する
・図示による
パネルをランナーに取り付ける部品
※ランナーに加わる重量の5倍以上の荷重に耐えられるもの
ハンガーレール及びランナー
※パネル重量の5倍の荷重を、パネル1枚に使用するランナー数で除した値に対して、耐力及び変形量が使用上支障のないもの

4. トイレブース

(20. 2. 5)

表面材の材料	脚部種類	ドアエッジ材質
・メラミン樹脂系化粧板 ・ポリエステル樹脂系化粧板	※幅木タイプ	※製造所の仕様による ・アルミニウム製 ・ステンレス製

5. 手すり

(20. 2. 6)

材料の種類及び仕上げ
SUS304 表面処理 ※HL程度
・鋼製 表面処理 溶融亜鉛めっき
(※標準仕様書表14. 2. 2による種別 () 種)
・アルミニウム 表面処理
(※標準仕様書表14. 2. 1による種別 () 種)
色合い ・標準色 () ・特注色 ()

手すりの握り部分

材種	表面仕上げ	直径 (mm)	取付箇所	備考
・集成材 (材種:)	・クリアラッカー	・35程度 ・45程度		
・ビニル製		・35程度 ・45程度		

6. 階段滑り止め

(20. 2. 7)

材種
※ステンレス製
・黄銅製押出型材
・アルミニウム製押出型材
・
形状
※タイヤ型 (タイヤの材質: ゴム又は合成樹脂合等)
・タイヤレス型
寸法 (幅)
・35mm程度 ・40mm程度 ・50mm程度

取付け工法
※接着工法
・埋込み工法

7. 黒板及びホワイトボード

(20. 2. 9)

・黒板
区分
※焼き付け
種類
※鋼製黒板
・ほうろう黒板
・
色
※緑
・ホワイトボード

8. 鏡

(20. 2. 10)

取付け箇所 ()
寸法 (mm)
・図示による
厚さ (mm)
※5

9. 表示

(20. 2. 11)

衝突防止表示
・設置する (設置場所: ※図示による)
形状・寸法 (30φ)
材質 (※ステンレス製)
・設置しない
誘導標識、非常用進入口等の表示
※消防法に適合する市販品
室名札、ピクトグラフ、案内板等の形状、寸法、材質、色、書体、印刷等の種別、取付け形式等
(案内用図記号はJIS Z 8210による)
※図示による

取付箇所

10. タラップ

(20. 2. 12)

材質及び仕上げ
・SUS304 (スリップ止め加工 ※あり なし)
・鋼製 表面処理 溶融亜鉛めっき
(※標準仕様書表14. 2. 2による種別 (※C種 種))

11. 煙突ライニング

(20. 2. 13)

適用安全使用温度
工法
※鋼製ユニット煙突 (煙突用成形ライニング材)

12. ブラインド

(20. 2. 14)

形式	操作方法	操作方法の種類	スラットの種類	スラット幅	ボックス・レールの材質	幅・高さ
・横形	・手動 ・電動	※ギヤ式 コード式 ・操作棒式	※7 mm 合金製	※25	※鋼製	・図示による
・縦形	・手動 ・電動	※2本操作コード式 ・1本操作コード式	7 mmスラット ・クロススラット	・80 ・100	※7 mm 合金製	・図示による

縦型ブラインドのスラットの材質
・アルミスラット 焼付塗装仕上げ
・クロススラット 消防法で定める防炎性能の表示がある特殊樹脂加工

13. ロールスクリーン

(20. 2. 15)

操作方法	スクリーンの材質	その他の材料	幅・高さ取付箇所	品質等
・スプリング式 ・コード式 ・電動式	・ガラス繊維製 ・合成・天然繊維製 ・木製	※製造所の仕様	・図示による	・

スクリーンの仕様
消防法で定める防炎性能の表示があるもの

14. カーテン

(20. 2. 16)

形式	開閉操作	ひだの種類	生地の種類、品質、特殊加工等	取付け箇所
・シングル・片引き ・ダブル・引分け	・手引き ・ひも引き ・電動	・つまみひだ ・箱ひだ、片ひだ ・プレーンひだ		・図示による

生地の仕様
消防法で定める防炎性能の表示があるもの
暗幕用カーテンの両端、上部及び召合せの重なり
※300mm以上

15. カーテンレール

(20. 2. 16)

材料による区分
・アルミニウム及びアルミニウム合金の押出し成型材
※ステンレス製
強さによる区分
※10-90
仕上げ
※アルマイト
形状
※角形

材種
・集成材 (仕上げ: 図示)
※アルミニウム製 押出し型材 (市販品)
標準仕様書表14. 2. 1による種別
※BC-1種 ・BC-2種
色合い
・標準色 () ・特注色 ()
・鋼製 (仕上げ:)

材種	寸法	形式	外枠	内枠
※アルミニウム製 ・ステンレス製	※450×450 ・600×600	・一般形 ・気密形	・屋内外用 ・屋内用	・顔縁タイプ ※目地タイプ ・顔縁タイプ ※目地タイプ

密閉形とは、ボルト、ナット等メカニカル構造にバックンを装着したものとする。

材種	寸法	形式	備考
※アルミニウム製 ・ステンレス製 ・鋼製	※450×450 ・600×600	※一般形 ・密閉形	・屋内外用 ・屋内用 ・鍵付き

密閉形とは、ボルト、ナット等メカニカル構造にバックンを装着したものとする。

材種	受け枠	備考
※塩化ビニル又はゴム製 ・硬質アルミニウム合金製 ・ステンレス鋼 (SUS304) 製	※ステンレス鋼 (SUS304) ・硬質アルミニウム合金	

材種	寸法 (mm)			備考
	W	D	H	
・流し台	・1200 ・1500 ・1800	・550 ・600 ・650	・800 ・850	市販品 トラップ付き 天板ステンレス製
・コンロ台	・600	・550 ・600 ・650	・620 ・670	市販品 バックガード有り 天板ステンレス製
・つり戸棚	・1200 ・900	・450	・500 ・700	市販品
・水切り	・1200 ・900 ・600	—	—	市販品 ステンレス製 ・1段式

形状
※図示による

材種	形式	高さ (mm)	操作方法	固定方法	備考
※アルミニウム合金製 ・	※テーパー式 ・同一断面式		※ハンドル式 ・ロープ式	・埋込式 ・ベース式 ・バンド式	

材種
・ステンレス製 (SUS 304)

形式	材種	柱径、肉厚 (mm)	高さ (mm)
・上下式鎖内蔵式 ・	・標準品 ・スプリング式	・ステンレス製	・
・			

フェンスの種類
・ビニル被覆エキスパンドフェンス
・樹脂塗装メッシュフェンス
・鋼管フェンス
・アルミフェンス
高さ
・図示による

16. ブラインドボックス及びカーテンボックス

(20. 2. 16)

⑩

17. 天井点検口

(20. 2. 16)

⑪

18. 床点検口

(20. 2. 16)

⑫

19. くつふきマット

(20. 2. 16)

⑬

20. 流し台ユニット

(20. 2. 16)

⑭

21. 旗竿

(20. 2. 16)

⑮

22. 旗竿受金物

(20. 2. 16)

⑯

23. 車止めさく

(20. 2. 16)

⑰

24. フェンス

(20. 2. 16)

⑱

25. 間知石及びコンクリート間知ブロック積み

(20. 4. 2、3)

⑲

	材種	種類	質量区分	備考
・間知石	・花こう岩 ・凝灰岩	—	—	
・コンクリート間知ブロック	—		・A ・B	

積み方
※谷積み ・布積み
目塗り
・図示による
伸縮調整目地
材種
・図示による
厚さ
・図示による

種類	規格等	JISによる種類
・鋼製書架 ・鋼製物品棚	JIS S 1039 の規格による	・1種 ・2種 ・3種 ・4種 ・5種 ・6種

26. 鋼製書架及び物品棚

(20. 4. 2、3)

⑳

27. 屋内掲示板

(20. 2. 16)

21

材の材質
※アルミニウム製
・
表面の材質
※塩ビ発泡シート張り
・

28. 洗面カウンター

材種
・メラミン樹脂化粧板張り (心材: 集成材)
・人工大理石
奥行き (mm)
・約450 ・約600

29. 防煙垂れ壁

材質	厚さ (mm)	高さ (mm)	備考
※ 網入り磨き板ガラス ・ 線入り磨き板ガラス	※6. 8	※500	アルミ製枠付き

・可動式

種類	材質	高さ (mm)	備考
・垂直降下式 (巻取り型)	※不燃布 (不燃認定品)	※500 ・800	ガイドレール ※固定式 (壁埋込型) ・可動式 (天井収納型)
・回転降下式	鋼板製又はアルミ製	※500 ・800	表面仕上げ ※天井材張り

降下機構
煙感知器連動及び手動開放装置 (埋込型)

30. 屋外掲示板

照明器具
・有り ・無し
施錠
・有り ・無し
製造所
・

31. 収納家具

合板類、MDF 及びパーティクルボードのホルムアルデヒドの放散量
※F☆☆☆☆
材質、形状、寸法
※図示による

⑳ 室外機カバー

①タカショー/アルミ室外機カバー 横格子タイプ 同等程度

1. 一般事項

2. 測定対象化学物質

3. 測定方法

総 揮 発 性 有 機 化 合 物 T V O C 測 定

4. 測定する室

5. 測定結果等報告書の提出

6. その他

試験採取および測定は、厚生労働省の「室内空気中化学物質の採取方法及び測定方法」(以下「厚労省の測定方法」という。) の新築住宅の例に準拠して行う。

測定対象化学物質は、下記 4 1) 、 2) の区分に従い、表の①から⑭の 1 4 物質及び T V O C 又は表の①から⑨の 9 物質及び T V O C とする。

1) クロマトグラム上で「n-ヘキサン」から「n-ヘキサデカン」までの部分に検出される物質のピーク値を「トルエン」に換算した値を T V O C 濃度とする。

2) トルエン換算で 2. 0 μg / m 3 未満のピークは測定の対象としない。

3) 上位 1 0 ピークについて物質を特定して濃度の測定を行う。

表 測定対象化学物質及び室内濃度指針値		
化学物質名	室内濃度指針値	
①ホルムアルデヒド	100 μg / m 3	0. 08 ppm
②トルエン	260 μg / m 3	0. 07 ppm
③キシレン	260 μg / m 3	0. 05 ppm
④エチルベンゼン	3 600 μg / m 3	0. 88 ppm
⑤スチレン	220 μg / m 3	0. 05 ppm
⑥パラジクロロベンゼン	240 μg / m 3	0. 04 ppm
⑦テトラデカン	330 μg / m 3	0. 04 ppm
⑧アセトアルデヒド	48 μg / m 3	0. 03 ppm
⑨ノナナール	(暫定) 41 μg / m 3	0. 007 ppm
⑩フタル酸ジ-n-ブチル	17 μg / m 3	0. 0015 ppm
⑪フタル酸ジ-2-エチルヘキシル	100 μg / m 3	0. 0063 ppm
⑫クロロピリホス	1 μg / m 3	0. 00007 ppm
⑬ダイアジノン	0. 29 μg / m 3	0. 00002 ppm
⑭フェノブカルブ	33 μg / m 3	0. 0038 ppm
⑮総揮発性有機化合物 (T V O C)	400 μg / m 3	(暫定目標値)

1) 1 4 物質及び T V O C 濃度を測定する室等
・ 室名:

2) 9 物質及び T V O C 濃度を測定する室
・ 室名:
・ 屋外 (周囲の建物から離れた場所 1 か所)

次の事項を記載した報告書を 2 部提出する。

1) 測定結果 (アセトアルデヒドについては、試験採取時の気温が 20℃ に満たない場合には、「厚労省の測定方法」に定める計算式で 20℃、湿度 50% に、ホルムアルデヒドについては 25℃、湿度 50% に補正した濃度を報告すること。)

2) 試験採取時の状況 (気温・湿度 (屋外、室内)、天候、風の状況、日射進入状況、採取年月日・時間、窓の開閉状況、機械換気量、工事完成から試験採取までの日数)

3) 試験採取方法、測定方法、使用した測定機器

4) T V O C 濃度の算出に使用したクロマトグラムの写し

表の化学物質①から⑮のうち、いずれかの物質の濃度が室内濃度指針値を超える場合は、工事目的物の引渡しを受けない。
T V O C の測定の結果、暫定目標値を超える場合は、発生原因の究明及び汚染物質の発生を低減するための対策について、協議を行うこと。

記 事

株式会社 楠山設計

仙台市青葉区一番町三丁目3番16号
オー・エックス芭蕉の辻ビル
T E L (022) 224-1207

一級建築士事務所
宮城県知事 登録 第23110182号
坂垣 俊也 登録 第 207908号

設 計 者

承 認

設 計 部

月 日

縮 尺

工 事 名

図 面 名

N o .

R7. 8

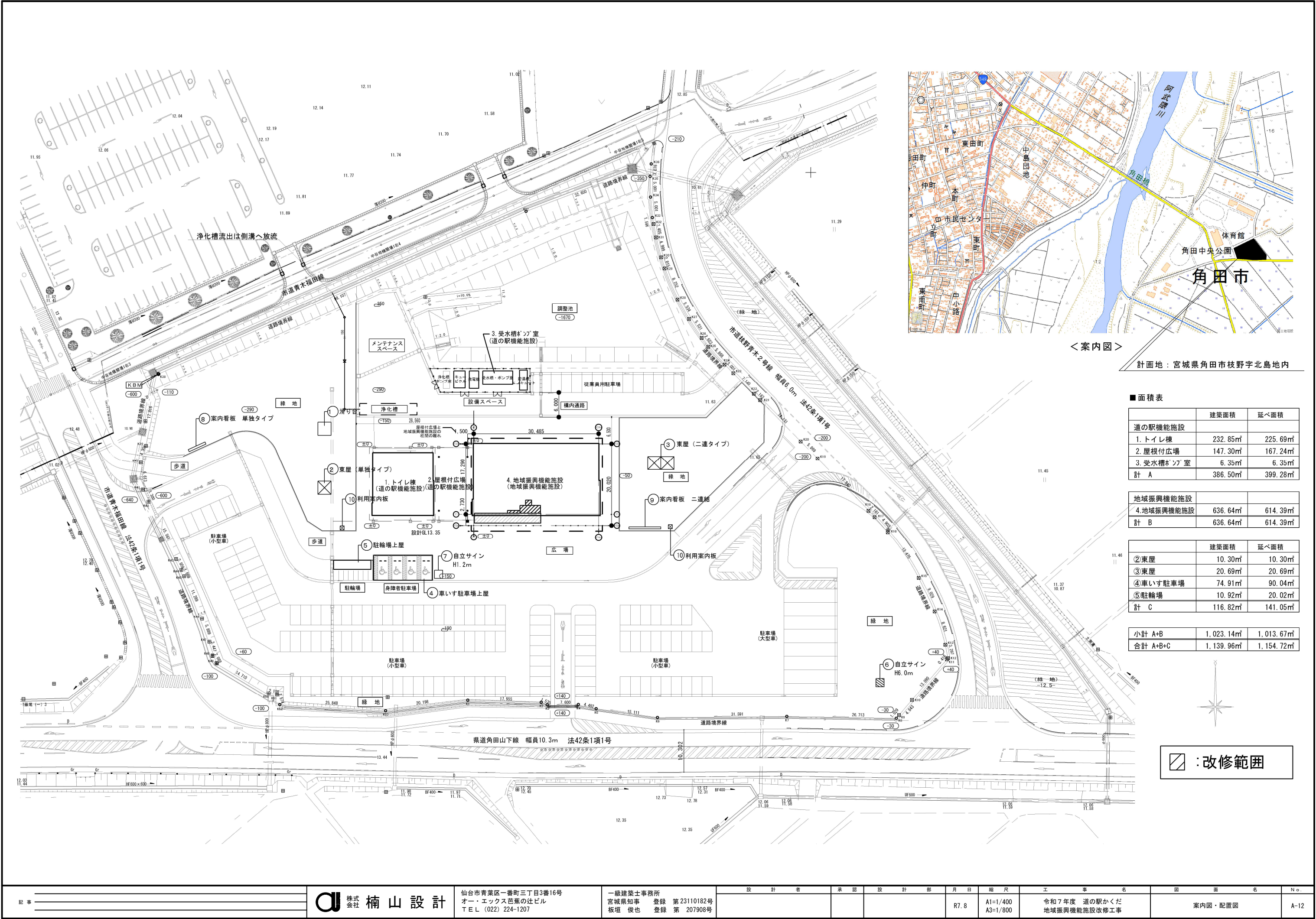
A1= A3=

令和7年度 道の駅かくた
地域振興機能施設改修工事

建築改修工事特記仕様書 (1 0)

A-10

各工事の区分表										
工 事 項 目	建築	電気	衛生	空調	昇降	外構			備 考	
構造躯体の貫通スリーブ及び箱入れ	○	○	○	○	○				各工事に必要なｼﾌﾟは各々の工事とする（予備は建築工事）	
同上貫通の開口補強	○									
同上スリーブ及び箱入れの穴埋め補修	○	○	○	○	○					
工場製作間仕切及び同左の天井、床、各種設備器具の穴開け、取付枠及び補強										
天井付各種設備器具の穴開け、取付枠及び補強・補修	※	○	○	○					※下地補強のみ建築	
設備関係諸室のシンダーコンクリート	○									
屋上、屋外及び屋内設置機器及び水槽類の基礎	○									
同上 仕上（防水）	○									
同上 用架台及びアンカーボルト箱入れ、埋込み		○	○	○						
自動ドア・防火扉（シャッター含む）	○	※							※煙感からの信号、1次配線	
台所用ｼﾝｸﾞｰﾌｯﾄﾞﾌｧﾝ及び浴室天井扇及び取付調整			○						ｼﾝｸﾞｰﾌﾞｽ除く	
同上ダクト接続				○						
同上電源用配管、配線及び接続		○								
ユニットバス（ｼﾝｸﾞｰﾙ含む以下同じ）差出し及び据付工事	○									
浴槽及び据付	○								浴槽パン共建築工事	
ユニットバス内シャワー水栓及び取付	○									
同上廻りシーリング打ち	○									
同上への配線及び配管接続		○	○						※1次側のみ	
キッチンキャビネット及び据付工事	○									
同上への配管接続			○							
吊戸棚、水切棚及び取付（ﾊﾞｯｸｶｰﾄﾞ共）	○									
同上への照明用電源配線及び接続		○								
洗面台及び据付			○							
洗面台カウンター裏面板仕上げ（製作物のみ）	○									
同上配管接続			○							
同上への照明用及びヒーター用電源配線及び接続		○								
洗濯ﾊﾝ			○							
設備機器用スリーブ、給気用スリーブ及び取付			○	○						
ダクト用ベントキャップ及び取付				○						
床、壁、天井点検口（下地補強共）	○								設備壁用扉は各設備工事	
換気扇及び取付枠への取付、配線		※		○					※配線は電気	
換気扇取付枠及び躯体への取付				○						
床暖房工事	※1	※2	※2						※1仕上は建築 ※2電気又は空調は電気式・温水式区分による	
非常用照明及び誘導灯		○								
消火器			○							
同上表示及び収納箱	○									
各種配管、ダクトの雨掛り躯体貫通部のｼｰﾘﾝｸﾞ打ち		○	○	○						
エレベーター各階出入口躯体穴開け・吊りフック	○									
エレベーター出入口三方枠・扉上部幕板					○					
三方枠廻りのノ口詰め					○					
エレベーター機械室床、穴開け復旧工事	○									
資材搬入口の仮設並びに復旧工事	○									
機器類取付後の出入口廻り（壁・床・枠等）仕上工事	○									
堅壁・ドレン・受け樋	○									
堅壁から第一軒までの接続	○									
同上第一軒以降の排水設備（樹・側溝等）						○				
マンホール、ハンドホール等の化粧蓋及びタラップ	※1	○	○						※1タラップは建築工事（躯体に設置する場合）	
ＴＶアンテナ、アンカーボルト取付工事		○								
屋上点検口、各種タラップ工事	○	※	※	※					※図面特記により電気、衛生又は空調	
ゴミ集積所工事（屋外）		※				○			※照明器具の設置及び配線	
自転車置場（屋外）						○				
同上照明器具及び接続	○									
フロバンポンプ庫	○	※	※							
同上配管工事			○							
便所の目皿・手摺り	○								便器一体の手摺り除く	
便所のペーパーホルダー			○							
手洗い乾燥機			○							
浄化槽・受水槽・オイルタンク躯体	※		○						※特殊基礎は建築工事	
屋外駐車場、歩道工事						○				
雨水排水側溝設置工事						○				
同上排水管接続			○							
					</					



＜案内図＞

計画地：宮城県角田市枝野字北島地内

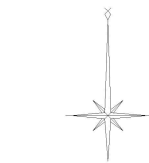
■面積表

	建築面積	延べ面積
道の駅機能施設		
1. トイレ棟	232.85㎡	225.69㎡
2. 屋根付広場	147.30㎡	167.24㎡
3. 受水槽ポンプ室	6.35㎡	6.35㎡
計 A	386.50㎡	399.28㎡

地域振興機能施設		
4. 地域振興機能施設	636.64㎡	614.39㎡
計 B	636.64㎡	614.39㎡

	建築面積	延べ面積
②東屋	10.30㎡	10.30㎡
③東屋	20.69㎡	20.69㎡
④車いす駐車場	74.91㎡	90.04㎡
⑤駐輪場	10.92㎡	20.02㎡
計 C	116.82㎡	141.05㎡

小計 A+B	1,023.14㎡	1,013.67㎡
合計 A+B+C	1,139.96㎡	1,154.72㎡

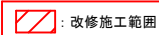
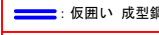
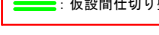


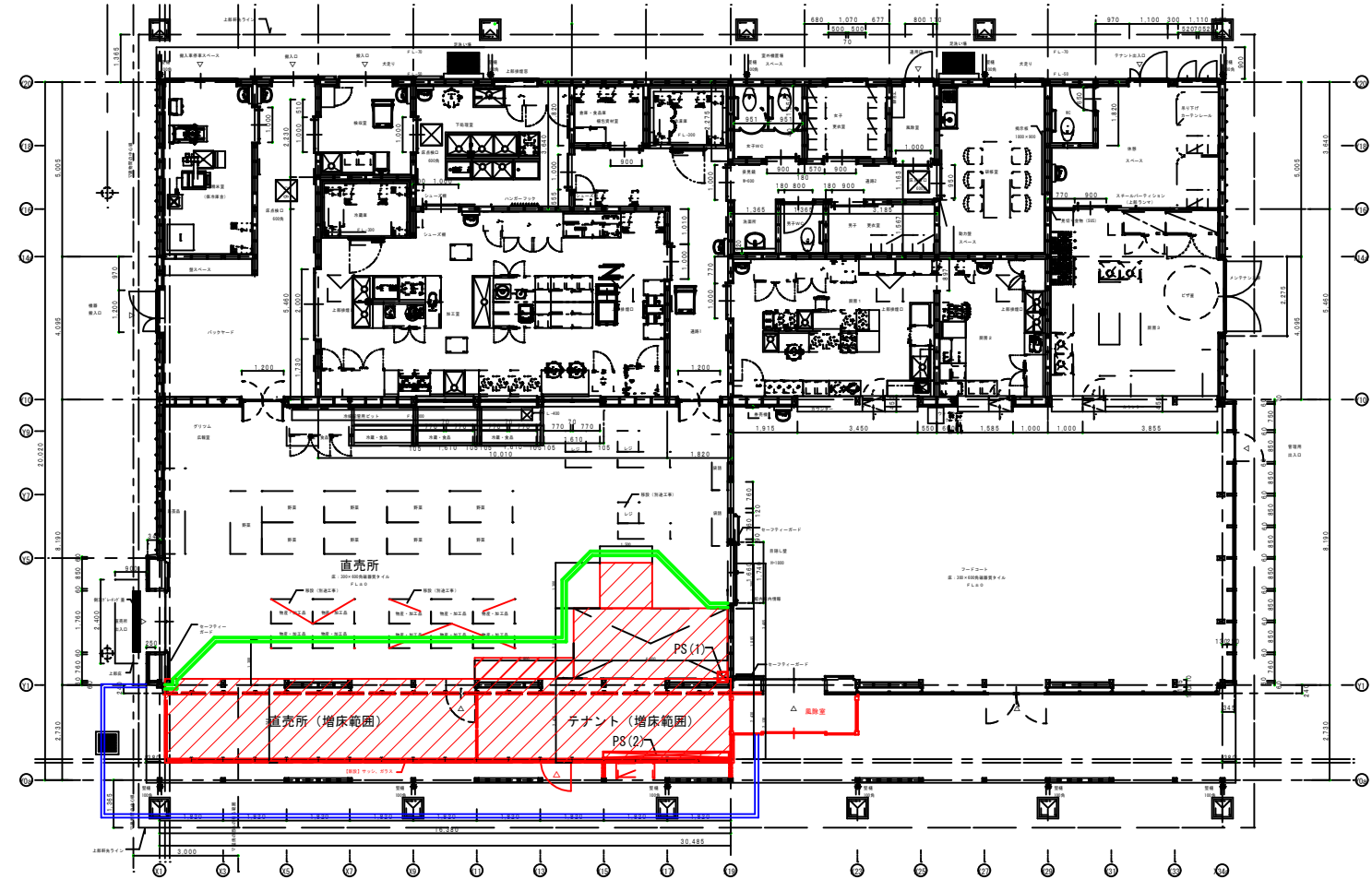
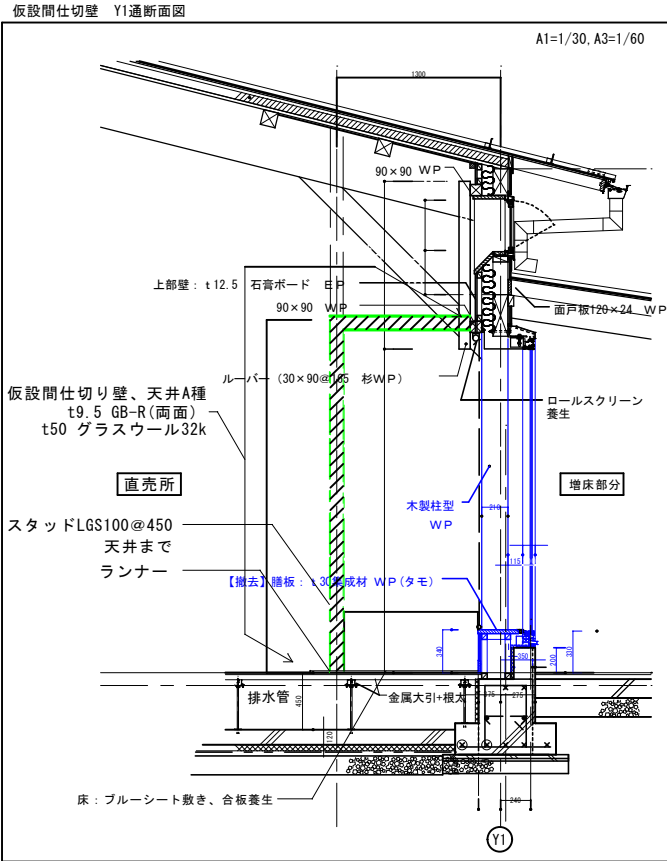
□ : 改修範囲

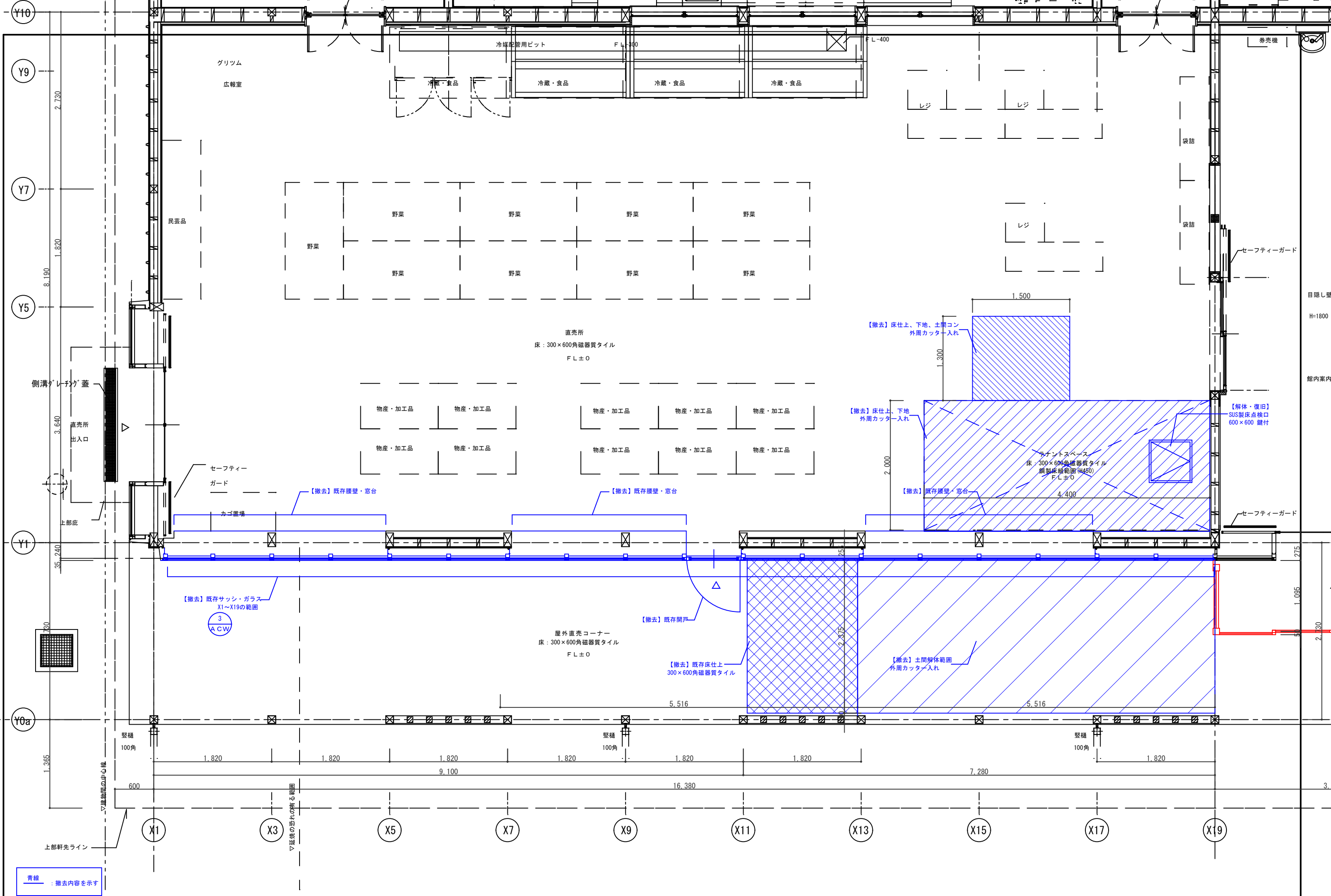
特記事項							
断熱材	天井面：t100グラスウール断熱材充填（32K相当 防湿紙包品）	天井廻縁	天井廻縁は特記なき限り塩ビ製とする。 又、天井仕上材専用の廻縁があればメーカー仕様とする。	シーリング	外部建具廻り、その他漏水の恐れのある箇所にはシーリング材を充填する。	石膏ボード	特記なき壁貼用石膏ボードはジョイントボードとする。
	床下：t100グラスウール断熱材敷き込み（24K相当 防湿紙包品） 金物固定 床下外周部立下：t30硬質ウレタンフォーム吹付	天井下地	天井下地は全て軽量鉄骨野縁組とする。 吊りボルトが H=1,500 以上の場合は 9φ振止め筋を設ける事。	内装仕上	内部仕上材はすべてF☆☆☆☆以上を使用すること。 合板及びクロス貼の接着剤はノンホルマリンタイプのもを使用すること。		天井仕上ボード張りで化粧石膏ボード及び岩綿吸音板張は、突付け張りとする。
	室内に面する土間スラブ下には、 t0.15 ポリエチレンフィルムを敷き込む事。	ライニングバック	手洗器、洗面器取り付け部分の背面仕上げはメラミン化粧板張り、 天板はポストフォームとする。	額 縁	特記無き額縁は本製C仕上とする。	造作家具廻り	造付け家具の壁と床の仕上げは施工しない。
	サッシ周り：t30硬質ウレタンフォーム吹付	金 物	使用する金物は全て SUS304 とする。	コア抜き部	地中梁コア抜きの際は、レントゲン調査及び監督員と協議の上、施工すること。	天井裏使用材	天井裏等に使用する材は全てF☆☆☆☆を使用する。
床見切	床仕上の異なる場合はSUS製を施す。	設備取合い	壁スペース・消火器ボックスの位置は設備工事打合せの上施工の事。	既存設備撤去	既存の壁付、天井付の設備撤去箇所は、穴塞ぎ等の補修を実施すること。	コンクリート	特記なき場合は、外周部のコンクリート打放面は20mm増し打ちする。
床下地	下地ラワン合板は構造用合板程度とする。	消火器	消火器 ABC10 型 は別途とする。	防塵対策	仮設間仕切り等の端部や隙間に目張りテープ等を用い、直売所内への防塵対策を講じること。		

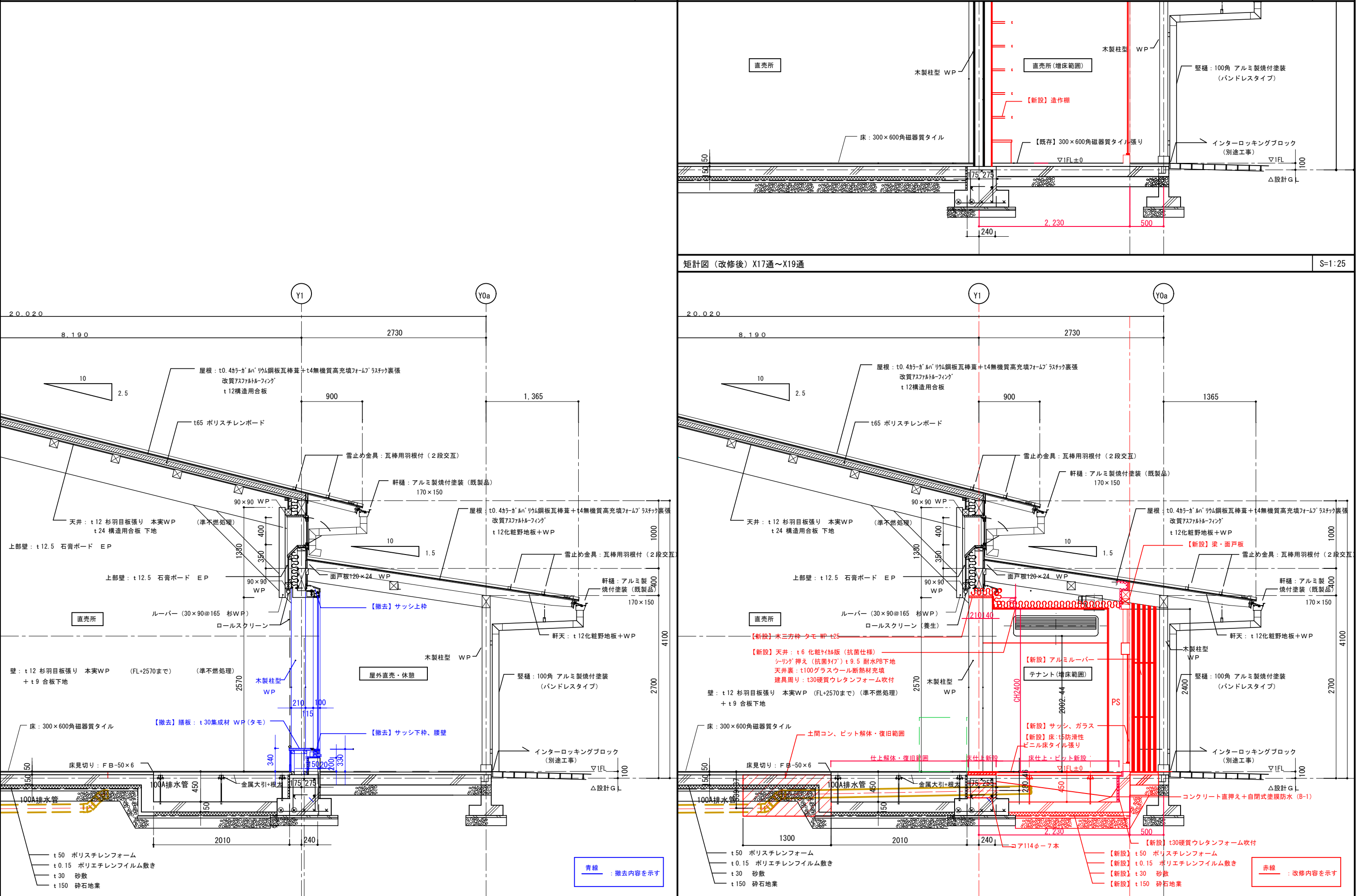
仕上表（改修前・後）

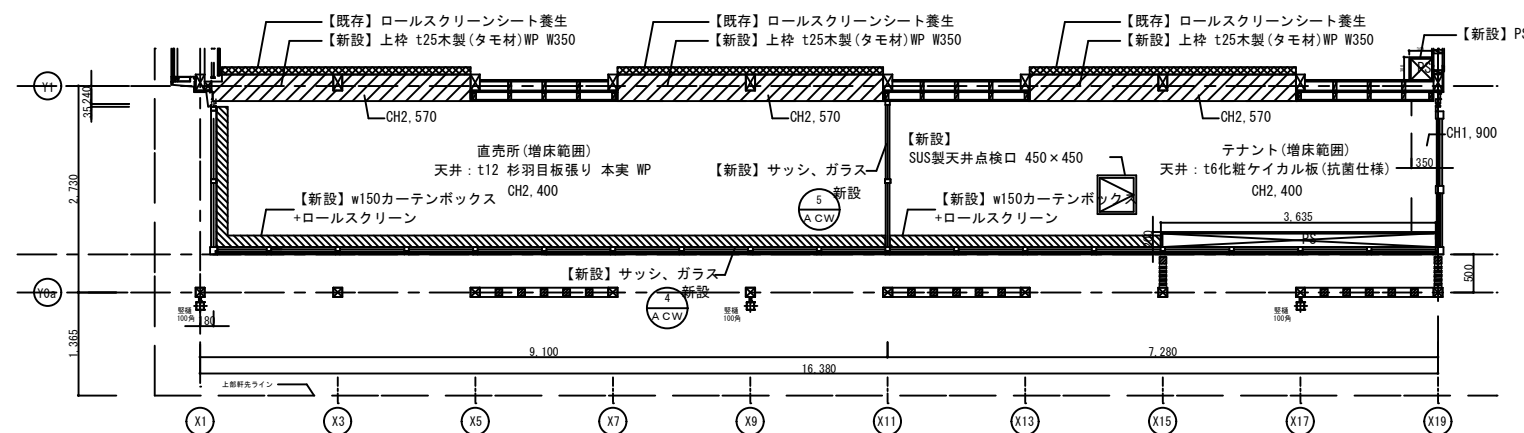
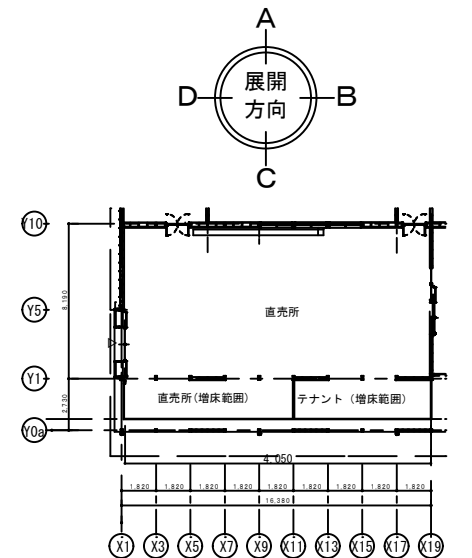
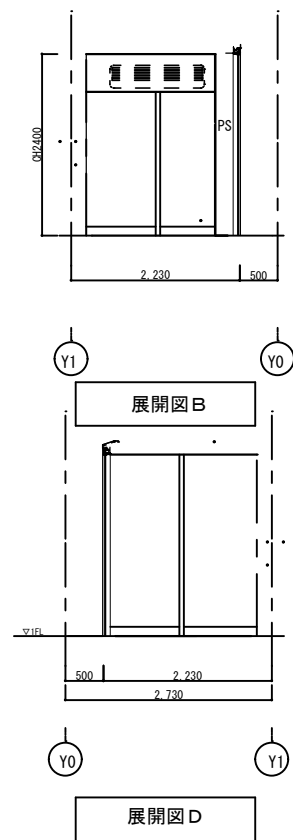
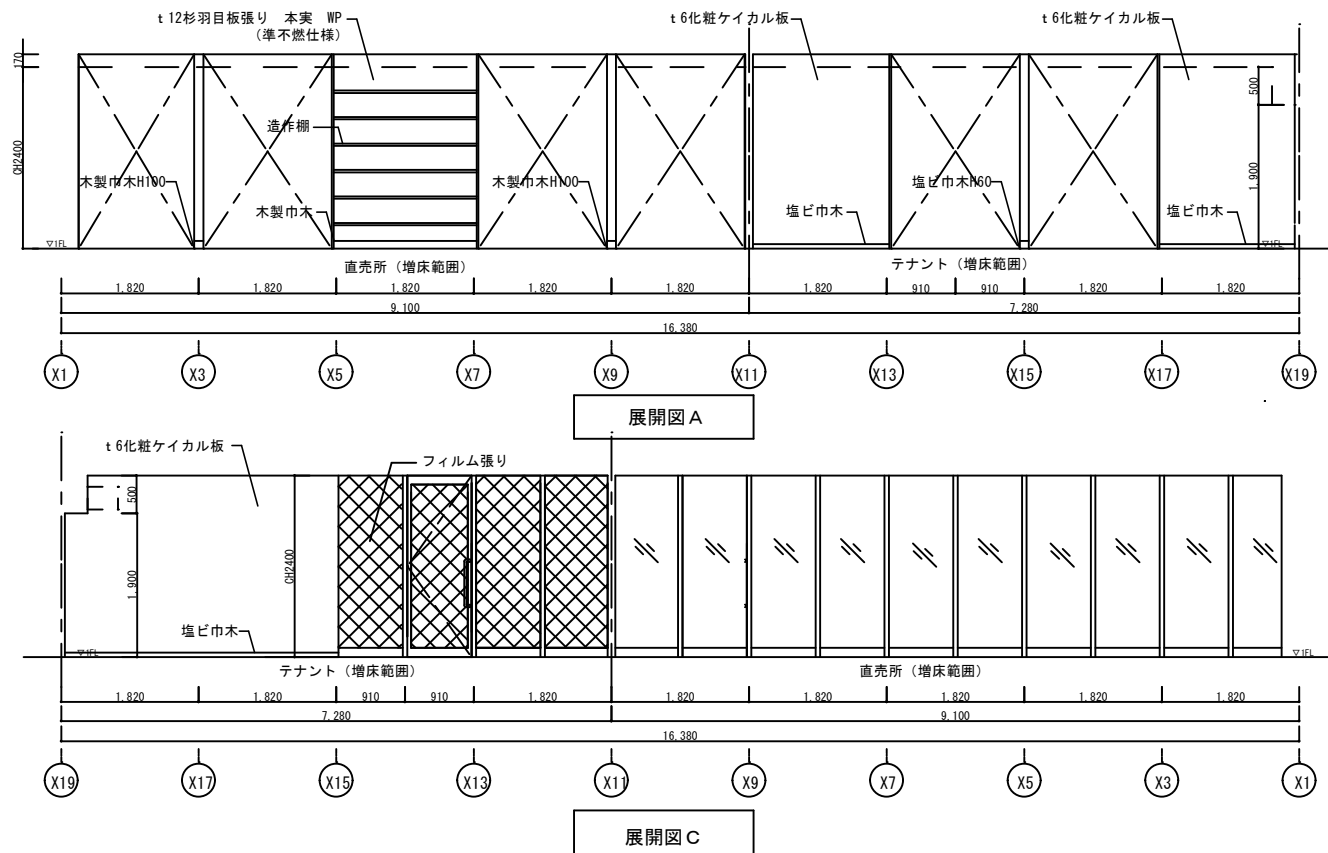
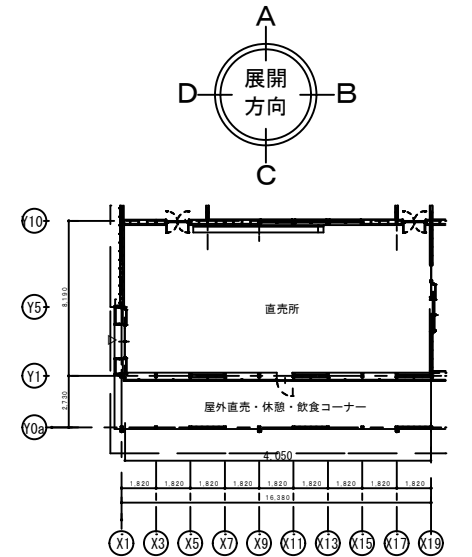
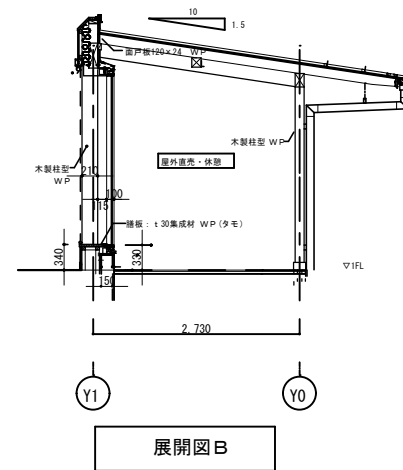
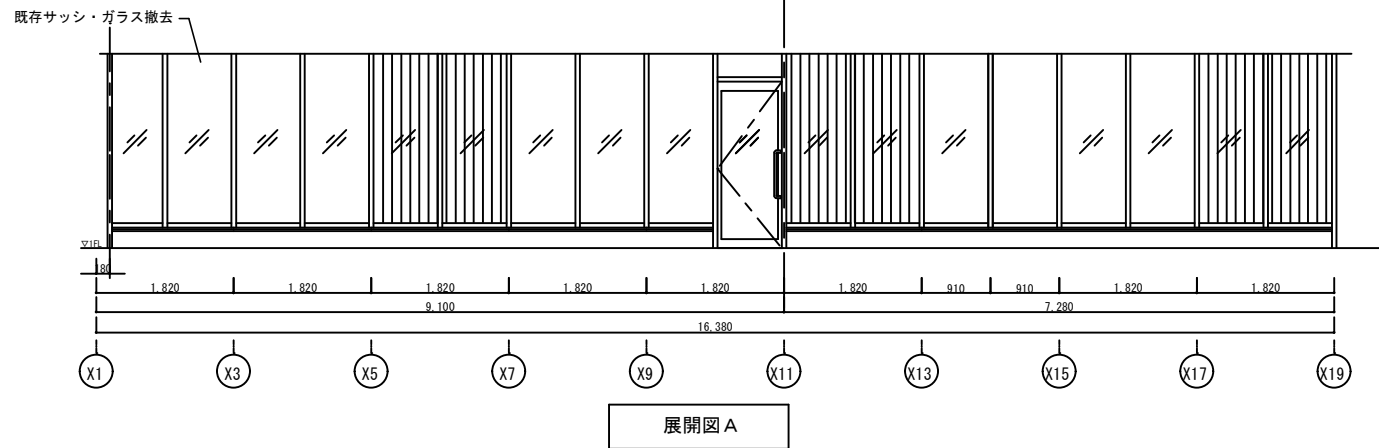
室 名	区分	床	床 高	巾 木	巾木高	腰 壁	壁	柱 型	天 井	天井高	備 考
直売所	改修前	仕上	300×600角磁器質タイル張り			t12杉羽目板張り 本実 WP	t12杉羽目板張り 本実 WP 一部木製ルーバーWP 30×90@150	現し	t12杉羽目板張り 本実 WP	4,100	
		下地	t30 モルタル			木組下地 t9合板	木組下地 t9合板		t24 野地板下地	6,100	
	改修後	仕上	既存建具撤去部：300×600角磁器質タイル張り 他：既存のまま		建具撤去部：木製WP 新設	既存のまま	既存のまま	現し	既存のまま	既存のまま	
		下地	t30 モルタル								
直売所 (旧テナントスペース)	改修前	仕上	300×600角磁器質タイル張り			t12杉羽目板張り 本実 WP	一部木製ルーバーWP 30×90@150	現し	t12杉羽目板張り 本実 WP	4,100	
		下地	t15 構造用合板 鋼製床組H450			木組下地 t9合板	木組下地 t9合板		t24 野地板下地	6,100	
	改修後	仕上	既存撤去の上、300×600角磁器質タイル張り		建具撤去部、PS周り木製WP 新設	PS新設部： t12杉羽目板張り（準不燃）本実WP 他：既存のまま	既存のまま	現し	既存のまま	既存のまま	PS(1)、販売棚
		下地	既存撤去の上、 t15 構造用合板 鋼製床組H450			PS新設部： 木組下地 t9合板					
屋外直売コーナー ↓ 直売所 (増床範囲)	改修前	仕上	300×600角磁器質タイル張り (ノンスリップ仕様)			t0.4ｵﾀﾞｸﾞ ｽﾎﾝ ｳﾙ鋼板		現し	野地板表し		
		下地	t30 モルタル			t4無機質高充填ﾌｵｰﾑﾌﾞﾗｯｸﾞｵﾌﾞｾﾞｰﾙ張 +t1.0ｽﾀﾝﾀﾞｰﾄﾞﾌｵｰﾑﾌｵｰﾑﾌｵｰﾑ+金属垂木					
	改修後	仕上	既存建具撤去部：300×600角磁器質タイル張り 他：既存のまま		木製WP 新設	t12杉羽目板張り（準不燃） 本実 WP		現し	t12杉羽目板張り（準不燃） 本実 WP	2,400	造作棚
		下地	t30 モルタル			木下地 t9.5GB-R			LGS天井下地		
屋外直売コーナー ↓ テナント (増床範囲)	改修前	仕上	300×600角磁器質タイル貼			t0.4ｵﾀﾞｸﾞ ｽﾎﾝ ｳﾙ鋼板		現し	野地板表し		
		下地	t30モルタル			t4無機質高充填ﾌｵｰﾑﾌﾞﾗｯｸﾞｵﾌﾞｾﾞｰﾙ張 +t1.0ｽﾀﾝﾀﾞｰﾄﾞﾌｵｰﾑﾌｵｰﾑﾌｵｰﾑ+金属垂木					
	改修後	仕上	t5防滑性ビニル床タイル張り		塩ビ巾木	t6化粧ケイカル板		現し	t6化粧ケイカル板(抗菌仕様) シーリング押え	2,400	PS(2)
		下地	ビット新設部：既存撤去の上、t15構造用合板 鋼製床組H450 他：t30モルタル			木下地 t9.5GB-S			LGS天井下地+t9.5GB-S		
PS(1)、(2)	改修後	仕上									
		下地	既存撤去の上、 t15 構造用合板 鋼製床組H450								
ビット	改修後	仕上	自閉式塗膜防水（B-1）			自閉式塗膜防水（B-1）					
		下地	コンクリート直押え			コンクリート直押え					

凡例	
 ：改修施工範囲	
 ：仮囲い 成型鋼板	22.5m
 ：仮設間仕切り壁（A種）t9.5 GB-R(両面)+t50グラスウール32k+LGSt100@450	20.9m







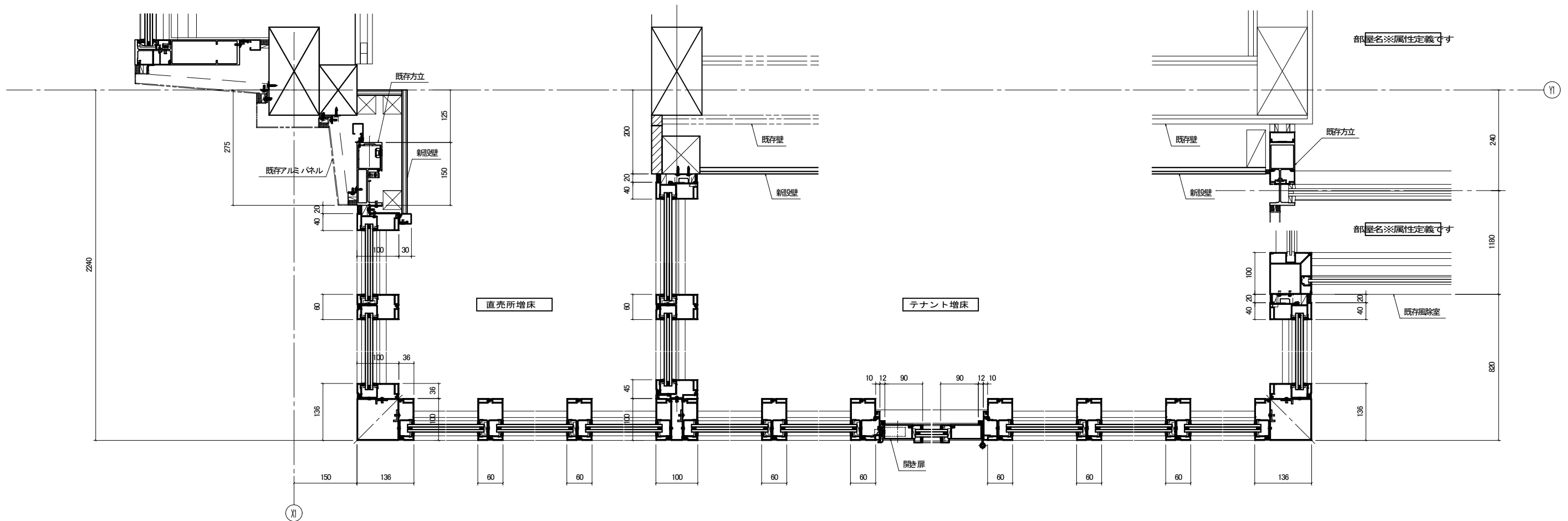
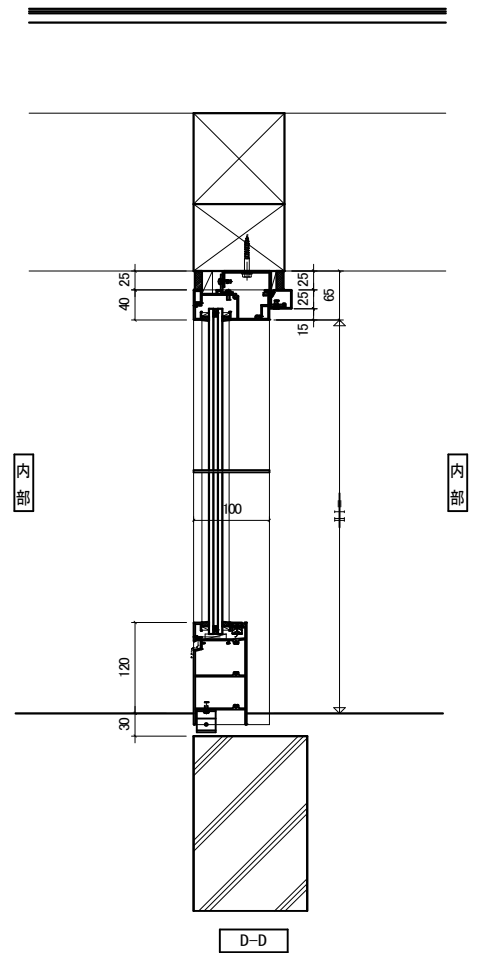
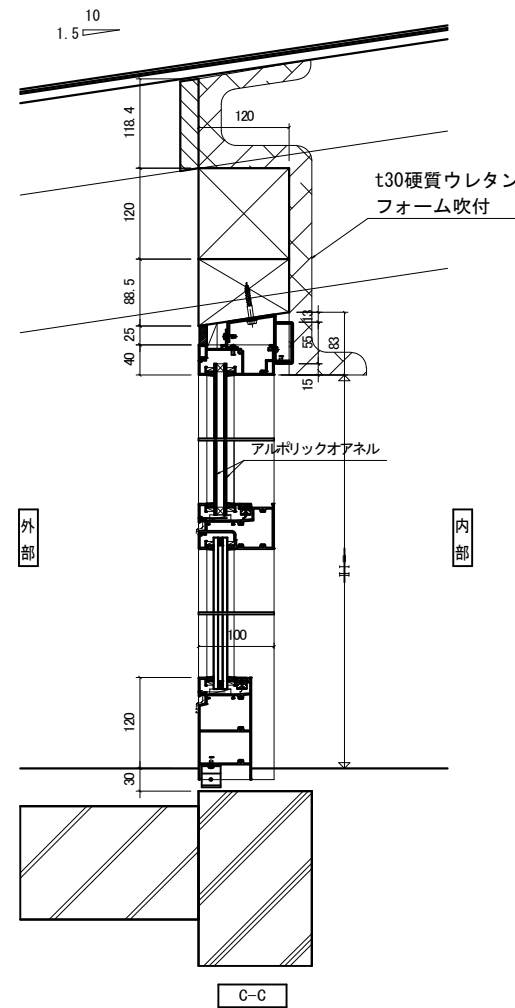
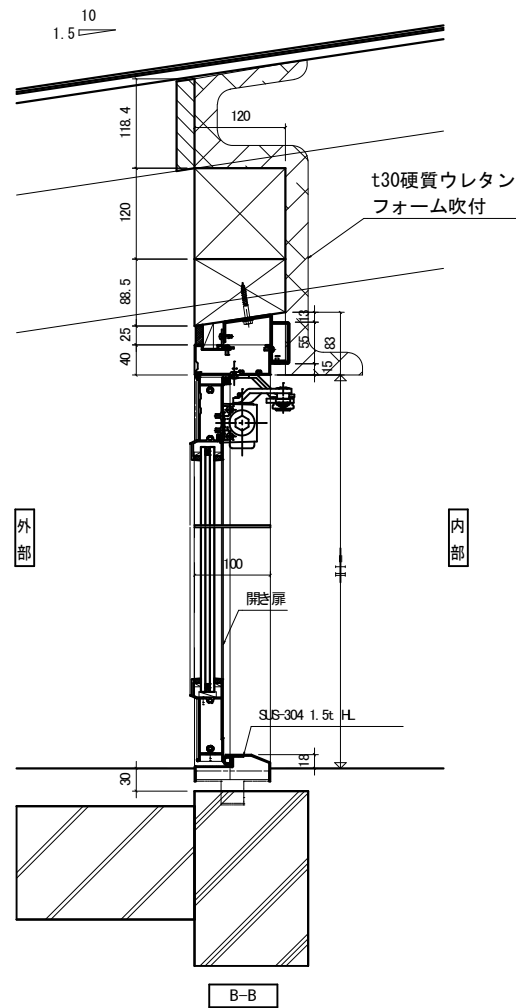
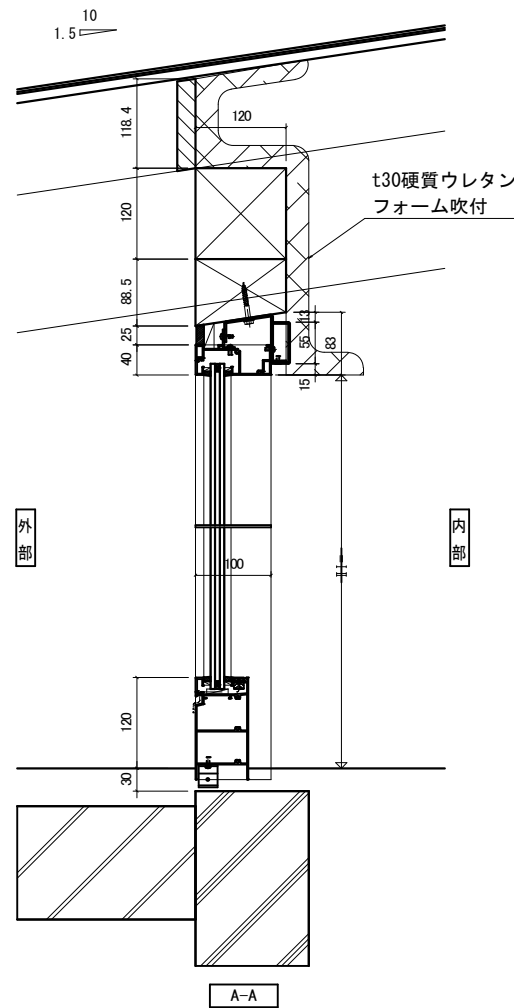


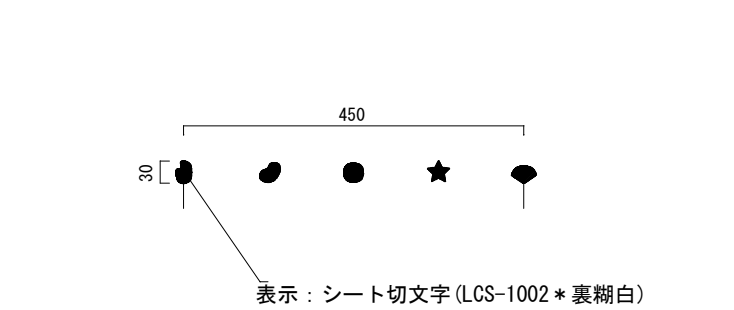
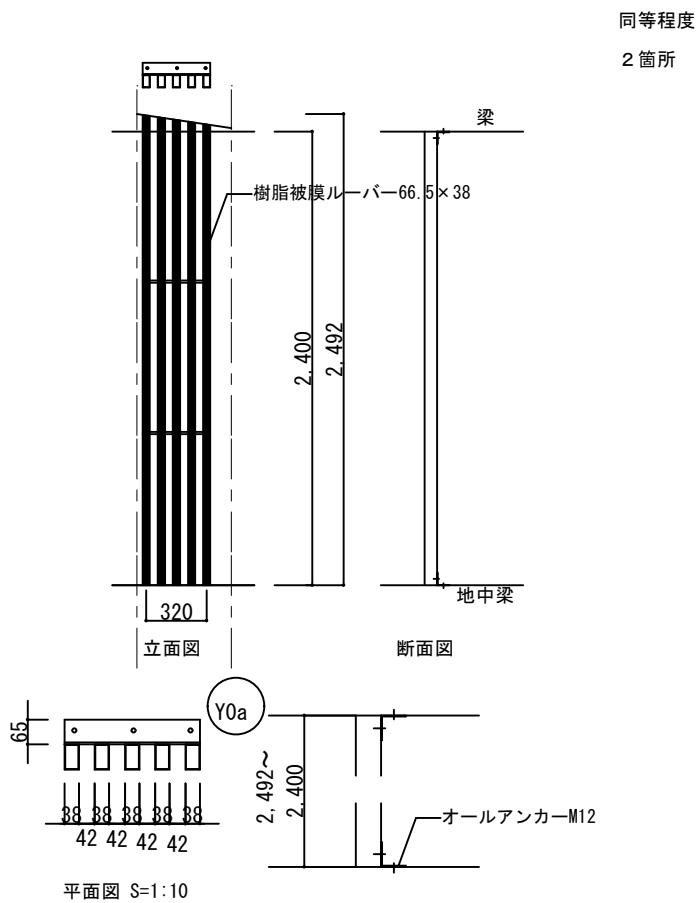
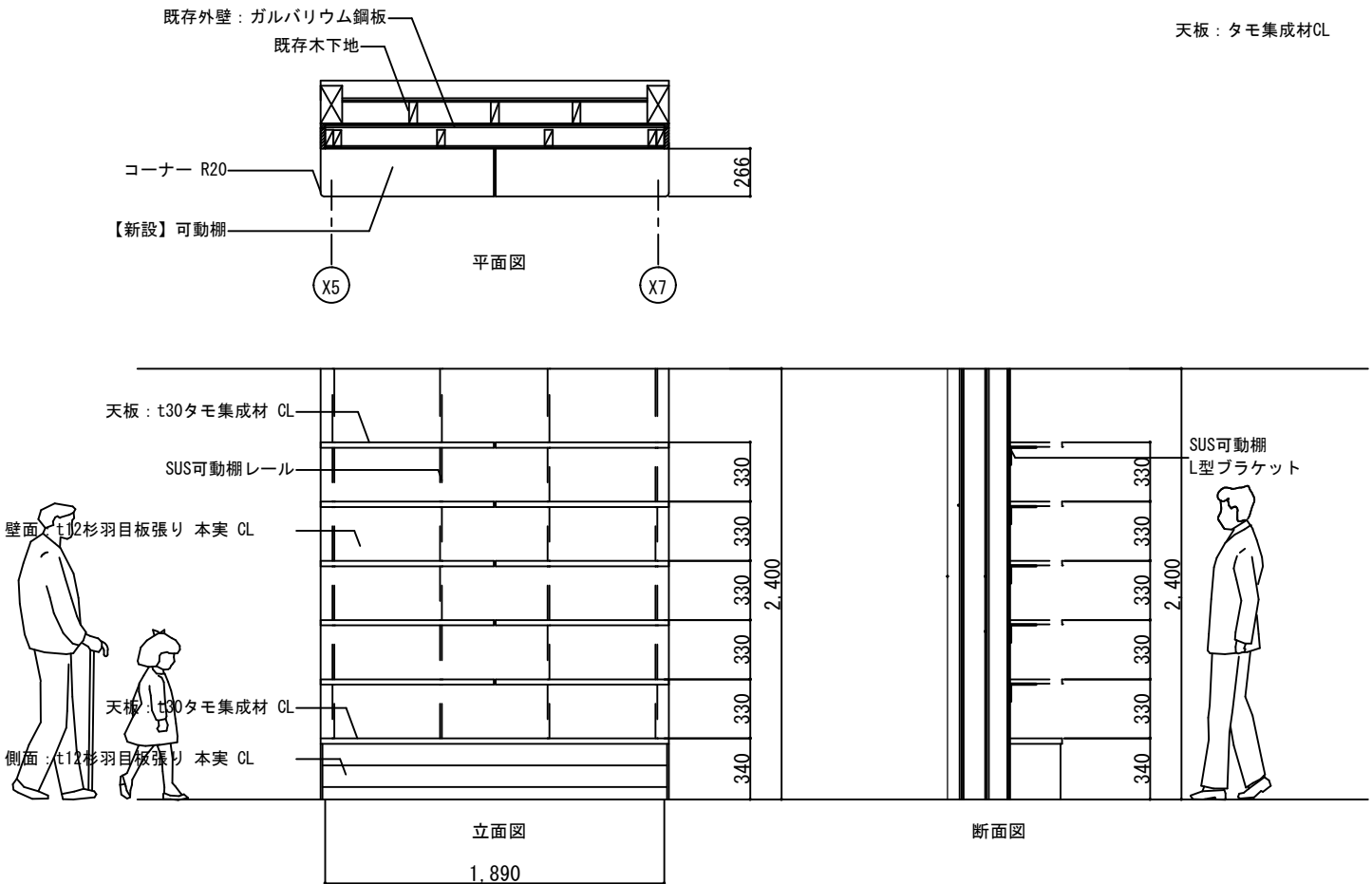
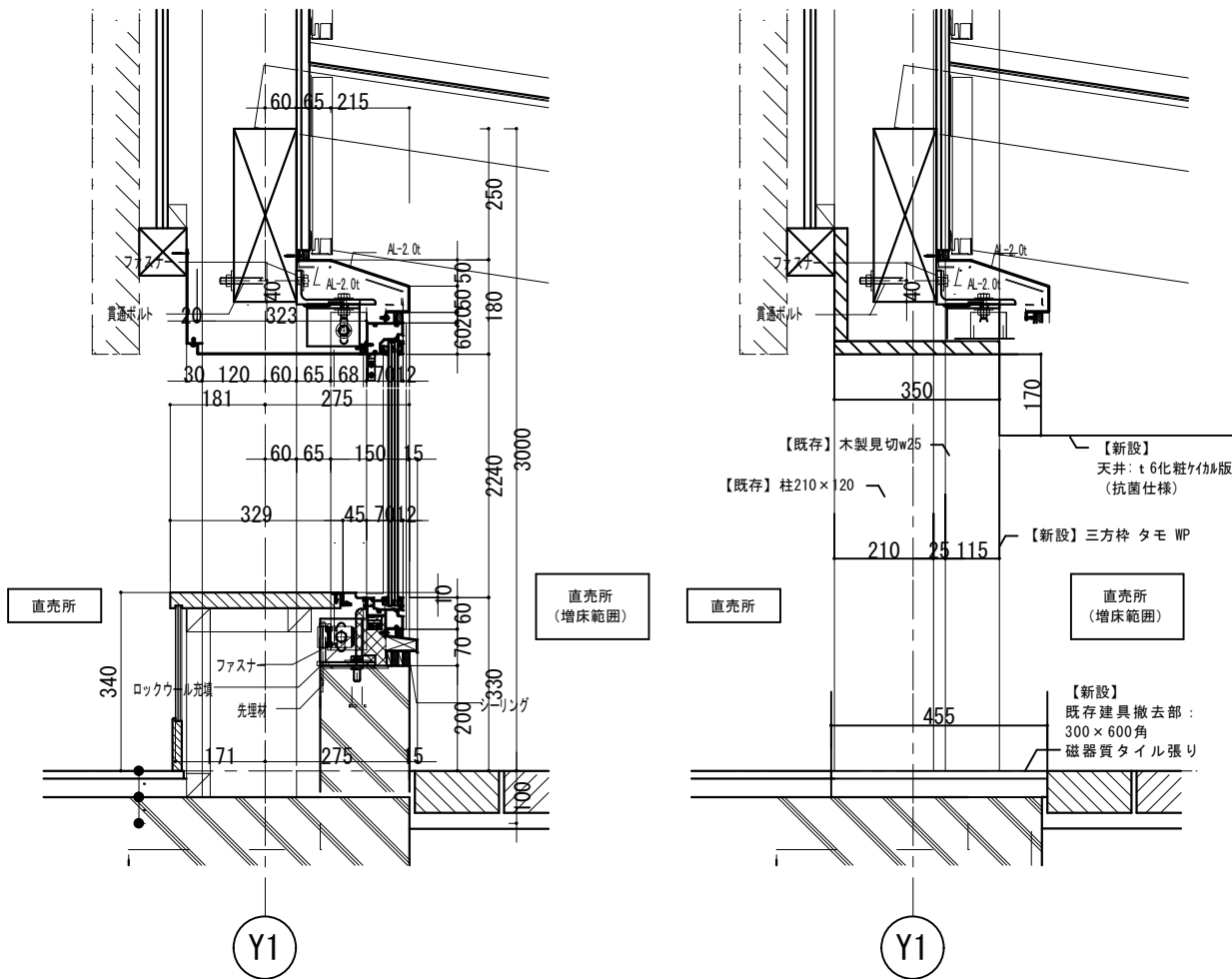
天井伏図

符 号		④ ACW 一部撤去	
形状寸法			
使用ヶ所	ヶ所数	フードコート 直売所	1
形式	見込寸法	アルミカーテンウォール FIX 両開きドア 片開きドア	100
仕上	硝子	アルミ 二次電解着色仕上 (ブラック)	TG6+A6+FL6
建具金物		フロアヒンジ、シリンダー錠 (サムターン付)、戸当り、ステンレス押棒、ステンレス番指、フランス落し	
備 考		飛散防止フィルム貼	
符 号		⑤ ACW 新設	
形状寸法			
使用ヶ所	ヶ所数	直売所	1
形式	見込寸法	アルミカーテンウォール FIX 片開きドア	100
仕上	硝子	アルミ 二次電解着色仕上 (ブラック)	TG6+A6+FL8
建具金物		フロアヒンジ、シリンダー錠 (サムターン付)、戸当り、ステンレス押棒、ステンレス番指、フランス落し	
備 考		飛散防止フィルム貼 (不透明 : 3M / V50同等)、飛散防止フィルム貼 (透明仕様 : 3M / SH2CLAR同等)、衝突防止サイン (部分詳細図 参照)	

建具凡例
④ アルミカーテン窓
④ アルミカーテン壁ドア
④ 網窓
④ 網窓ドア
④ カーテンウォール
④ トップライト
④ シッター
④ 軽量スチールドア
④ スライディングウォール
④ 木製ドア
④ 木製窓
④ トイレブース
④ アルミカーテンガラリ
④ ガラスブロック
④ ステンレス壁ドア
④ ショーウィンドウ
④ スチール製枠

< 特 記 事 項 >
※オペレーター設置はワンタッチ付とし特記なきは埋込型とする
※アルミカーテン設置員の検出特記なき場合は右欄 (標準品)
※アルミカーテン設置員性能 (H 番)
耐風圧 (Pa) ・S-6 (2500Pa) ・S-5 (2000Pa)
気密性 ・A-4 (4 等級級) ・A-3 (3 等級級)
水密性 (Pa) ・W-5 (500Pa) ・W-4 (250Pa) ・W-3 (250Pa)
遮音性 ・T-1 (25等級級) ・T-2 (20等級級)
ガラス符号
※FL : フロートガラス
※F : 強化ガラス
※FH : 断入り型ガラス
※FW : 断入り型ガラス
※T : 強化ガラス
※FT : 強化強化ガラス
※Low-E : 高断熱型ガラス
金物符号
※FH : フロアヒンジ
※PH : ピボットヒンジ
※DO : ドアチェック (特記なきは1100mm付とする)
④ : 防火設備
④ : 特定防火設備





設置位置について監督員と協議による

